

令和元年度 第29回広島県中学校特別活動研究大会 (東部大会)

大会のまとめ

—研究主題—

「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造」
～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～



令和元年11月18日(月)

尾道市立日比崎中学校



目 次

1	あいさつ	1
2	大会概要	2
3	日比崎中学校研究構想図	4
4	日比崎中学校公開授業・協議会まとめ	
	1年3組「文化祭」伝統を受け継ぐ	6
	～ 日比中生に求められること ～	
	2年1組「文化祭」伝統を受け継ぐ	7
	～ 日比中の新リーダーとして ～	
	3年3組「文化祭」伝統を受け継ぐ	8
	～ 日比中で得た宝物 ～	
5	記念講演	9
	演 題 『主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造』	
	～話合い活動を通じた合意形成力や意思決定力の育成～	
	講 師 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 先生	
	(前 文部科学省初等中等教育局 視学官)	
6	各分科会 提案概要・まとめ	
	第1分科会(学級活動1)海田町立海田中学校	28
	第2分科会(学級活動2)福山市立大成館中学校	29
	第3分科会(生徒会活動)広島市立己斐中学校	30
	第4分科会(学校行事)安芸高田市立高宮中学校	31
7	講評	32
	広島県教育委員会 豊かな心育成課 土田 俊弘 指導主事	
8	資料	36
	広島県中学校特別活動研究大会の経過	
	令和元年度広島県中学校研究会特別活動部会 理事一覧表	
	広島県中学校特別活動研究大会 開催予定地	

あ い さ つ

広島県中学校教育研究会特別活動部会長
広島県中学校特別活動研究大会(東部大会)実行委員長
尾道市立日比崎中学校長 宮里 浩寧

第29回広島県中学校特別活動研究大会(東部大会)を、國學院大學人間開発学部教授、杉田 洋様にご講演いただきますとともに、広島県東部教育事務所 所長 立花 正行様、尾道市教育委員会 教育委員 木曾 奈美様をはじめ、多数の関係の皆様のご臨席を賜ります中で、ここ尾道市立日比崎中学校で開催できますことは、誠に光荣であり、ご参加いただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

さて、新しい学習指導要領の改訂では、特別活動の特質を踏まえ、これまでの目標を整理し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つを指導する上で重要な視点とすると同時に、この三つの視点を踏まえて、各活動及び学校行事を通して育成する資質・能力を明確にされました。さらに、内容については、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を重視するため、学校や学級の課題を見だし、よりよく解決するために、話し合っ合意形成し実践することや、主体的に組織を作り、役割分担して協力し合うことの重要性を明確にしています。

このような中、広島県中学校教育研究会特別活動部会では、研究主題である「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造」のもと、各地域・学校で実践を重ねてまいりました。今年度も県内各地から、日頃の実践を持ち寄り発表していただきます。4つの分科会の提案は、それぞれ、学校・地域において実践されている活動ですが、いずれも特別活動の目標に示されている望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己を生かすことをめざして、様々に工夫された質の高い内容であると考えています。

また、本日は各学年において学級活動の授業公開を行います。この授業公開では「話し合い活動を通して合意形成力の育成」を目指す授業になっているかを研究協議の視点に掲げています。色々な見方や考え方からの忌憚のないご意見をいただき、広島県において特別活動が今以上に生徒達にとって意味のある活動となる様に、この大会で協議されたことが、明日からの各校での教育実践に生かされることを願っています。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、ご指導・ご助言いただきました広島県教育委員会、尾道市教育委員会の皆様、準備・運営を行っていただいた実行委員会の先生方など、本日まで関わっていただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます、挨拶いたします。

第29回 広島県中学校特別活動研究大会(東部大会)

研究主題 「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造」
～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～

期 日 令和元年11月18日(月)

会 場 尾道市立日比崎中学校(広島県尾道市日比崎町23番1号)
TEL(0848-22-6513)

主 催 広島県中学校教育研究会特別活動部会

共 催 広島県教育委員会

後 援 広島県公立中学校長会 尾道市教育委員会 府中市教育委員会
神石高原町教育委員会 三原市教育委員会 世羅町教育委員会

日 程

8:30	9:00	9:20	9:35	10:05	11:05	11:55	12:40	14:35	15:35	16:15
9:00	9:20	9:30	9:50	10:55	11:55	12:40	14:20	15:25	16:15	16:30
受 付	開会行事	実践発表	生徒発表	公開授業	協議会	昼食	記念講演 (含紹介・謝辞)	分科会	全体会	閉会行事
30	20	10	15	50	50	45	100	50	40	15

公開授業

[学級活動]

学年・学級	授業者	題材名	場所
1年3組	佐藤 祐司 教諭	「文化祭」伝統を受け継ぐ ～日比中生に求められること～	1年3組 教室
2年1組	風盛 文哉 教諭	「文化祭」伝統を受け継ぐ ～日比中の新リーダーとして～	2年1組 教室
3年2組	川嶋 新平 教諭	「文化祭」伝統を受け継ぐ ～日比中で得た宝物～	3年2組 教室

分科会

分科会	第1分科会	第2分科会
	学級活動1	学級活動2（進路指導）
テーマ	自己肯定感を高める学級活動 ～話し合い活動を通して～	自主的・実践的な活動を通して、 自己実現を図る進路指導
提案者	海田町立海田中学校 川本 正大	福山市立大成館中学校 桑木 亮輔
司会者	府中町立府中緑ヶ丘中学校 梶山 直樹	福山市立東中学校 中島 悠輔
記録者	海田町立海田西中学校 中元 健裕	福山市立向丘中学校 大場 涼子
指導助言者	西部教育事務所 山口 洋平 指導主事	福山市教育委員会 沖藤 豊 指導主事
分科会	第3分科会	第4分科会
	生徒会活動	学校行事
テーマ	楽しい学校づくりの取組 ～いじめ防止の取組を中心にして～	郷土を想い、地域との協働による 「体験学習」を通して、社会参画意識・ 共感的人間関係を育む学校行事
提案者	広島市立己斐中学校 佐伯 陽子	安芸高田市立高宮中学校 松本 聡志
司会者	広島市立宇品中学校 中西理恵子	安芸高田市立甲田中学校 阿部 正志
記録者	広島市立宇品中学校 大重 直美	安芸高田市立八千代中学校 中原 有紀
指導助言者	広島市教育委員会 加藤 真弓 指導主事	西部教育事務所芸北支所 中島 貴宏 指導主事

講演

演 題 『主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造』
～話し合い活動を通じた合意形成力や意思決定力の育成～

講 師 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 先生
(前 文部科学省初等中等教育局 視学官)

講評

広島県教育委員会 豊かな心育成課 土田 俊弘 指導主事

令和元年度 研究構想図

学校教育目標

『高くかかげよ』

～夢と志を抱き、仲間とともに、高め合う子どもの育成～

研究主題

『主体的な学びを促す探究学習の創造』

～課題設定と協働学習（話し合い活動）の充実を通して～

研究仮説

各教科・領域において、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」のある探究学習の授業を展開し、その中で協働学習（話し合い活動）を充実させることができれば、生徒の知識活用力および資質・能力(表現力・コミュニケーション能力・主体性)をより育成できるであろう。

本校で育成を目指す資質・能力

表現力
(思考、判断、表現力と活用力)

コミュニケーション能力
(読解力と対話力)

主体性
(好奇心と課題発見力)

日比中スタイルを活用した
探究学習

教科
(道徳以外)

特別の教科
道徳

特別活動
(学活、学校行事)

総合的な学習の時間

研究内容①

強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定

単元を貫く問い

中心発問

議題の充実

単元を貫く問い

研究内容② 協働学習の充実（少人数班、ホワイトボードの活用、全体討議の実施など）

話し合い活動

話し合い活動

話し合い活動

話し合い活動

各教科・領域の土台となる言語活動

- ・知的活動（論理や思考）及びコミュニケーションや感性、情緒を育成する活動
- ・各教科で培った言語に関する能力
- ・生徒発表の場（自己表現）
- ・読書活動、視写

学校評価
重点目標

- (1) 感動と涙と歌声あふれる卒業証書授与式
(体育大会・文化祭、学校行事を通したリーダーシップの育成)
- (2) 主体的な学びを促す授業づくりの推進（解きたくなる課題・思考を深める学び合い）
- (3) 生徒の心に寄り添う生徒指導と進路指導（指導の入る人間関係を基盤とした指導）
- (4) 特別活動の推進（生徒会活動を通した話し合いによる合意形成力の育成）

令和元年度 特別活動 研究構想図

学校教育目標

『高くかかげよ』

～夢と志を抱き、仲間とともに、高め合う子どもの育成～

研究主題

『主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造』

～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～

研究仮説

特別活動（学級活動）において、「生徒発信による議題設定」を行い、じゃんけんでもなく、多数決でもない「話し合い活動」を充実させることができれば、生徒の合意形成力と意思決定力をより育成できるであろう。

本校の特別活動で重点的に育成を目指す力

合意形成力

意思決定力

日比中スタイルを活用した
特別活動（学級活動）

研究内容① 議題の充実（意欲を高める生徒発信の工夫）

- （１）学校行事を核とした、生徒がチャレンジしたいと思う単元づくり（１年を見通したPDCAサイクル）
- （２）生徒の思い（アンケート等）に寄り添った、生徒による議題の決定
- （３）議長団の育成

研究内容② 話し合い活動の充実

- （１）２つの学習過程の活用
 - ・合意形成（出し合う、わかり合う、比べ合う、まとめ合う。「私は」→「私たちは」へ）
 - ・意思決定（つかむ、さぐる、見つける、決める。「私たちは」→「私は」へ）
- （２）少人数班による討議の充実（出し合う）
 - ・ホワイトボードの活用、発表時のホワイトボードの提示の工夫
- （３）全体討議の充実（わかり合う・比べ合う）
 - ・討議の見える化（ホワイトボードに生徒の意見を加筆していく）
 - ・質疑応答、グルーピング、ラベリング（意見の練り合い、吟味）
- （４）「まとめ」の工夫（まとめ合う）
 - ・キーワードをしぼる、複数の意見を残す（～〇箇条）

1 学年 協議会（まとめ）

<授業者>

尾道市立日比崎中学校

佐藤 祐司 教諭

<指導助言者>

尾道市教育委員会 教育指導課

常光 涼介 指導主事

<司会者>

尾道市立日比崎中学校

房光 梨沙 教諭

<記録者>

尾道市立重井中学校

植木 誠也 教諭

交流・協議

【1 グループ】

まとめの際に、生徒が話し合う中でまとめるためのツール(ホワイトボードなど)があればよかった。課題解決を達成するためには、提案理由にもう一度立ち返ることで深まったのではないかな。

【2 グループ】

視聴覚教材などの準備が入念にされていた。課題として、より深い合意形成をするためには生徒の話し合いのポイントとして、学年の違いなどにもふれることが重要ではないかな。

【3 グループ】

生徒による運営がスムーズで、生徒の話し方や聞き方が良かった。議題・課題の設定が適切で、全員が議論に参加できていた。課題としてはキーワードを多く出し合うことだけでなく、一つのキーワードを掘り下げて議論していくほうがより葛藤を持って、合意形成できたのではないかな。

【4 グループ】

生徒主体でホワイトボードなどのツールを使いこなして話し合いができていた。課題としては、議論の中で葛藤が見られなかった。また、どの段階で合意形成していくのかが生徒にとって分かりづらかったのではないかな。

指導助言

研究授業のための授業ではなく、日々の実践が確かにあることを見取ることができた。ホワイトボードの活用や発問の技法は日常の授業の中に根付いている。カリキュラムマネジメントの視点を取り入れた生徒主体の学びが展開されていた。

議長団を組織し、生徒が授業を展開していく形は、生徒にとって非常にハードルの高いものだったが、生徒が主体となって50分間を取り組む姿があった。そこには、日常生活や学校行事に根差した強い問題意識と達成欲求があったからこそだと感じた。また、教師は生徒の話し合いに必要な最低限の言葉がけやきっかけを与えることだけにしぼり、生徒主体の授業となる働きかけをしていた。さらに、新学習指導要領にもあるように、学校行事までの取組のみに留まらず、適切な振り返りをすることで学びのスパイラルを生み出していく形となっている。

授業全体の構成としては、最初に文化祭を振り返り、議題の提案があった。その後、出し合う・分かり合う・比べ合う・まとめ合うという流れであった。特に、出し合う部分では生徒それぞれが「私たちは」ではなく、「私は」という主語で意見を述べていたことで、生徒一人一人の自分ごととして議題が受け取られていることを感じた。また、まとめ合う際には、グループでの話し合いにおいて特定の意見を採用するのではなく、様々な意見を折衷させて意見を刷り合わせていこうとする場面が見られた。こういった議論の進め方は新学習指導要領にも則っており、日比崎中学校が設定するルーブリックにも適切に反映されている。

今後、生徒がさらにレベルアップするポイントとして深めるということがキーワードとなる。それぞれの意見とともに明確な理由を添えることや、他者の意見に対して理由を問うことが生徒間でできるようになれば、さらに深い合意形成に到達することができるようになる。

今後も特別活動の取組を、単なる行事に向けての話し合い活動や行事のための練習時間ではなく、生徒に必要な資質・能力を育む時間として展開していくことを大切にしていきたい。

2 学年 協議会（まとめ）

<授業者>

尾道市立日比崎中学校

風盛 文哉 教諭

<指導助言者>

尾道市教育委員会 教育指導課

村上 祥太郎 指導主事

<司会者>

尾道市立日比崎中学校

安藤 美里 教諭

<記録者>

尾道市立向東中学校

瀧奥 恵二 教諭

質疑応答

《質問 1》

- ・活動を行う議長団の選出はどのような方法で行っているのか。

《授業者》

- ・立候補によって決定している。

《質問 2》

- ・本授業の構成及び班編成について、教えてほしい。

《授業者》

- ・授業構成については5時間の編成
- ・班編成については、班長を決め班長会を経て班員を決定する。班長が班員をサポートすることが前提となる。

《質問 3》

- ・本時の板書計画はどのように構成しているのか。

《授業者》

- ・議長団の中で原稿や板書の型を話し合っ

交流・協議

- (1) 生徒が話し合い活動を通じて合意形成できていたかについて

- ・生徒が主体的に活動できており、普段の取組の成果が表れている。
 - ・学級担任を中心とした学級経営がうまくいっている
- ので、生徒が他者の意見を尊重しながら話し合い活動ができている。
- ・話し合い活動の流れが生徒に定着している。
- また、事前準備が丁寧に行われている。

- (2) 合意形成に相応しい各段階（「出し合う」「わかり合う」「比べ合う」「まとめ合う」）の取組になっていたかについて

- ・「出し合う」「わかり合う」の活動が集団の質も高く、活発に行われている。
- ・議題が生徒の日常生活と結びついている。
- ・「出し合う」「わかり合う」の活動に比べて「比べ合う」「まとめ合う」の活動がさらに活発に行われるとよい。
- ・ワークシートの改善や前時の振り返りなどの活用などを行ってみてはどうか。
- ・「まとめ合う」の活動では、まとめられる生徒の意見が最終的に採用されているように思う。もっと多くの意見からまとめができるとよいのではないかと。

指導助言

① 合意形成に向かう姿

- ・学習環境の充実がある。担任を中心により良い学級の人間関係が構築されており、自治的能力が高まっている。
- ・今日だけではなく、これまでの日比崎中学校の取組の成果が表れている。
- ・ホワイトボードの活用が定着している。さまざまな意見の見える化ができている。

② 1時間の変容

- ・日比崎中学校のこれまでの取組から、生徒がグループ活動に慣れていることで、生徒が自ら話し合いの内容をキーワード化したりすることができる。
- ・議長団が進行を行い、班長がグループをまとめ、個人・班・学級全体へと話し合い活動が広がっている。

③ 今後に向けて

- ・これまでの取組を継続しながら、更に生徒の挑戦したくなるような単元の設定ができるとよい。
- ・現在の日比崎中学校では、導入の工夫や思考を深める発問の工夫がすべての教科で行われており、対話的な意見のやりとりや話し合い活動の授業スタイルも確立している。それらの活動が合意形成能力の向上にもつながり、更に学力の向上にもつながっている。

3 学年 協議会（まとめ）

<授業者>

尾道市立日比崎中学校

川嶋 新平 教諭

<指導助言者>

広島県東部教育事務所 教育指導課

半田 光紀 指導主事

<司会者>

尾道市立日比崎中学校

石崎 正恵 教諭

<記録者>

尾道市立向島中学校

東 聡 教諭

質疑応答

《質問 1》

今日、前に座っていた司会進行役はどのような経緯で決まり、事前にどのような打ち合わせを行ったのか。また、彼らは机間巡視をしていたが、司会役の生徒のワークシートや話し合いはできてなくてよいのか。

《授業者》

体育大会、生徒総会、文化祭など行事ごとに議長団を選出している。今回の議長団は立候補がなかなか出ない中でやってみようかなという事で立候補してくれた。

本時の打ち合わせについては話し合い活動の流れの確認をした。

議長団についてはいろいろな発言を聞いて、最後の振り返りの部分だけ書いていけばいいと声をかけた。

《質問 2》

普段の授業では議長団はどのように授業にかかわっているか。また、話し合いのグループを組む時の注意点を教えて欲しい。

《授業者》

話し合い活動のとき、議長団は前に出るがそれ以外のときは普通に授業に参加する。グループを組む時は4人班で活動したときにできるか考え、班長を交えて話し合いを行い班を編成している。

《質問 3》

話し合い活動を通して生徒はどのように変容したか。

《授業者》

普段の授業でもやり取りをする場面が多くなった。意見を出して終わりではなく、深めようとする姿勢が見られるようになった。

《質問 4》

授業の中での指導者の役割、考え方、スタンスはどのようなものであることが望ましいと考えられるか。

《授業者》

意思決定の場合、必要に応じて介入するべきであると考えている。合意形成の場合は極力かわりを小さくするべきだと考えている。

交流・協議

(1) ねらいについて

本当にねらいにある進路実現に向かった目標になっているか教員が揺さぶりをかけてもよかったのではないかと。また、他の生徒の個人の意見を聞く時間を多くとり、他の生徒の意見と自分の意見を比較していくことでよりねらいの達成に近づくのではないかと。

(2) 教師の役割について

生徒の議長団による司会進行は見事だった。その中で教師が指導者として効果的にかかわることができれば、問題はより焦点化され、課題や手段、目的が混同されていた状況もより明確になり、生徒が考えやすい状況を作ることができたのではないかと。

指導助言

本日の授業の参考となる点として次の3点をあげる。

①学級経営の充実。安心して自己開示ができる学級づくりが行われていた。

②生徒に共通した課題を自分の課題として見つめさせている。学年やクラスの問題を自分の課題として捉えられるように導入の映像があり、自分の課題をどう解決していくか考えていた。

③学級での話し合いを生かして自分に合った解決方法を見つけ出す。話し合いの中で他の生徒の意見も参考にして自分に合った、行動に移せる方法を見つけていく。

また、今後に向けてということで次の2点をあげる。

①中学生の時期に自己を見つめ多様な他者の価値を認める学級活動の充実。自己を見つめ自分の良い所に気付くことで自己肯定感の向上につながり、その感情が自己実現力や自己指導力の向上につながっていく。

②ガイダンス、カウンセリングの趣旨を踏まえた指導。集団に行うガイダンスと個々の生徒にその実態に合わせて行うカウンセリングを両輪として学級経営を充実させていく。

記念講演

『主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造』

～話し合い活動を通じた合意形成力や意思決定力の育成～

講師 國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 先生

(前 文部科学省初等中等教育局 視学官)

みなさん、こんにちは。ただいまご紹介に預かりました杉田でございます。広島県とは本当に関係を深く持って頂き、ありがたいなと思いますね。一昨年は確か平和公園ですね、すべての教頭先生を対象にお話をさせて頂きました。尾道、東広島も全教職員にお話をさせて頂き、ありがたいことだなと思います。というのは、文科省を離れて4年になります。それまでは18年教員をやって、そして教育委員会へ行って、大学へ行って、考えてみれば教育に関わる色々な立場をやりつくしている感じですね。今、教員養成をしているものですから、親もやっていたから、一応。

残念ながら国語や数学や英語の調査官とは違います。特活の調査官は、良い車に乗っているけど、なかなか乗ってもらえない。なかなか売れない車を売ってるセールスマンのイメージがあります。しかしどうだろう、昭和33年道徳と一緒に生まれ、まあ兄弟と言われ、どっちがお兄さんかと言われれば喧嘩になってしまう。だいたい道徳が上で、特活はそのついでという感じになるんですけども。そういう中であって、こうやって特に小と中の文化が揃わない中で、中学校研究大会をこれほどまでに充実しておやりになっている広島県はありがたい。まして私にとっては、1年間で日比崎中学校の生徒を、よくぞここまでという風に思いますね。特活を逆に価値付けて頂いたと思い感謝を申し上げます。

残念ながら働き方改革によって、一番崖っぷちのピンチになっているのは特活でありまして、いつなくなるか分からないよと、こう言われているものですから。私としては日本の教育の象徴でもあるわけですし、エジプトには200

億以上かけて安倍総理とシシ大統領がハンコ押して、日本式教育の象徴として特活を入れているわけです。だから掃除もやっているわけですし、日直当番もやっているわけです。そう考えると、意外と日本の国内は見捨てられがちですけども、海外からの評価は高いと、そういう不思議な状況になっているということでございます。

子どもたちは、家庭に産まれてくるんですね。本当に、孫は可愛いですね。無条件に。娘が教員やっているんです。息子も教員なんですけども、一番下は別の名前で先生をやっているんです。妻が一昨年、1年早くやめまして。なぜかという、長女の長男が発達障害なんですよ。特別支援学級に入れないといけないんです。目の前に学校があるんですけども、そこにはないものですから、毎日送り迎えしないといけないんですよ。毎朝、幼稚園に孫を送って、一回家に帰ってきて、また幼稚園に迎えに行き、晩飯食べさせて、それで寝かせたら帰ってくる。ほとんど私とすれ違いなんです。私は月に3回くらいしか帰らないのですが、前はそれでも妻がいたので、帰ったら感謝されたんですね。たまにしか帰らないから。実はその娘から先日、運動会の写真がたっぷり送られてきてね。嬉しいんだな、娘は。練習の時はほとんどやらないんですよ。発達障害だから。でもね、先生に支えられてね。お友達に支えられてね。演技やったんですよ。親はこんなことで嬉しいんですよ。どうも我々教員は子どもが見えなくなっちゃうけど、家庭にとっても国にとっても大事な、命なんですよ。そのことを大前提に今日、お話をさせて頂こうと思います。

こうして生まれた子どもたちは、ある意味、必須の多くを家庭で身に付けると言われます。それから子どもたちが出ていく、生きていく社会を広げながら、就学前教育に向けて性格などの大本が出来上がり、幼児教育、就学前教育がどんな教育だったのか。そもそも生まれた家庭は、その子どもにとってどんな家庭だったのか。これが大きくその後の人生を左右してしまうということです。

そして、その幼稚園教育を受けた子が、小学校に上がってくるわけですから。みんなから称えられて。こんな時代にどんな教育を与えたらいいのかわかって、小学校の教員は悩むわけだ。そして出会いや別れも、教育の一つとして考えながら、多くの価値観などをこの時代に学び、身に付け、そして目標を持って、次のステップである中学校へ行く。まあ、こういうわけです。

中学校へ行ったら、なんとなく親との会話がなくなっちゃってね。体育祭を見に行つてどうだったか聞くと、「別に」とかね。親だから話をしても分からないというけど、話さないともっと分からないから。頑張つてしゃべるよね。「素晴らしかったよ」と言ったら、「普通」つて言われちゃうんだよね。どんどんどんどん、こうやって会話が成り立たなくなっていく中で、なんとなく先生に反抗しているのが、かっこよく見える時代が来てね。髪の毛に、朝1時間もかけるようになっちゃって。こんなんで、モテるとか、モテないとかね。部活で選手になれるとか、なれないとか。そんな多感な思春期の時代に、中学校の教員ありがたいんですよ。まっすぐ伸ばしてくれるから。残念ながら、フラフラして、挑戦もしない奴というのは、失敗もせず失敗から学ぶこともできない子どもたち。だから私は優秀な教員というのはね、授業が上手いというのも大事だけど、やる気を引き出してくれる先生だと思うね。最高の先生だと思う。親に向けて言うんだから。そう考えるとね、中学校の先生の役割は、とても大きいと思う。あの時期に曲がったりしちゃうんだから。あそこがまっすぐに行けばね、ずっとすくすく行くことができるわけですからね。まあ、こういう中学校の時代に、態度と行動を身に付けると一般的には言われているわけです。まさにそういう中で、笑顔あふれる学校作りというのは、どの学校もきつと願っていることだと思います。

やがて、高校、大学と出て、意見などを作り、世界を広げていくことになります。そういう中であって、この内側

の中にあるもの程、早い時期に固まってしまう、後で変えにくいものと言われます。外側にあるものほど、年齢がいつてから作られるけど、比較的変えやすいものと言われます。方法をここで挙げたものは数値で計れないものです。残念ながら数値で計れるものに一喜一憂していますが、その数値で計れるような学力を使っているのは、数値で計れないような人間です。なので、我が国では全人教育と言って、これらをバランスよく育てることを、世界の中で最も大事にしている国です。だから私は、今日のような合唱・生徒発表を見たら『涙』が出るんです。一生懸命を見ると、ああいう子であってほしいと願いますよね。ぜひ、こういうことを大事にしていける、そういう学校で日本の教育があり続けて欲しいと願っています。

今般、学習指導要領には3つの今後の育てたい人間像が示されました。1つは、すごく簡単に言うと、自分の良い所がちゃんと分かって、そのことを活かそうとする子どもであって欲しい。俺なんかとか、どうせやったつてとか、そう思わない子であって欲しい。あのね、どんな子もそうですが、自分には良い所が1つもないという子は絶対に頑張れませんよ。どんな子もです。我々のやることは、横に並べて順位付けることじゃない。その子の良い所をちゃんと見つけて潜在能力を引き出して、付加価値を付けて次の時代に送ってあげる。これが最高の教員だと私は思っています。AIには出来ないんですよ、こういうことは。どんな時代になったとしてもね。まさにそういう教員の集まりであって欲しいと思いますね。あらゆる他者を価値ある存在として尊重できる子だから。最悪なのは、頭が良くて人を馬鹿にする人です。多くの人を不幸にする。だっていづれ、先頭に立つ。だから、そこは私たちが心しなきやといけないと思う。頭の良い子ほど、ちゃんと人が公平だとか、そんなことがわかるような人間になって欲しいと思う。だから、日本の教育は優れているんだと思う。

自分はこうなりたいから、今これ頑張ってると言える子です、簡単に言うと。なんで掃除やっているのと言ったら、働くってすごく重要なことだから、今これ訓練しています。子どもが言ったら、そう言うね。でなきゃ、毎日やらされている掃除になっちゃうということですね。そして、社会参画。集団社会の形成者としての役割を果たし、協働してよりよい社会を築ける人です。今、学級の中でそれが出来ないのに、大人になってできますか。国を愛せって、まず隣の人を愛せってことじゃないですか。隣の子を愛せない人間が、多くの人を愛せますか。隣の子を愛せない子が、この日比崎中学校の、愛校心なんて持てますか。そこからだと思いますよ。

そして、多様な他者を受け入れ、認め、共に成長し合う関係を築けるということです。ますます外国人が多くなります。発達障害も増えます。違いや多様性がさらに拡大します。その中で自分だけ生きていくわけじゃないことを、十分に知った上で、共に生きる力を育てなきゃいけない。だけどこれをどうやるかと言ったときに、道徳じゃないんだ、特活は。特活は、行動しなきゃいけないわけですよ。為すことよって学ぶんだから。行動しなきゃいけないんですよ。では、行動するためには何が必要か。為すべきことを決定するという事です。『為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり。』結局、今の子どもたちは、指示待ちの子どもが多いという教員のアンケート結果が出ている。「どう、家庭学習ちゃんとやらないと」と言いながら、宿題をたんまり出してる先生がいる。そもそも時間がないじゃない。ほぼほぼ指示命令している先生の元で指示待ちになるに決まっていますよね。その大本がどこにあるのかと私は思ってる。アクティブラーニングは、まさにそのことでしょうけど。同じ授業でノート作ってる、毎年同じことを黒板に書いてる授業はだめでしょう。子ども中心に置かなきゃね。当然ですよ。だけど、目的、志を持ってなきゃ、為すべきことは決定しないんですよ。そ

もそも、明日への希望がない子は、そういうことしないんですよ。明日への希望が人を育てます。だから優秀な教員は、子どもに夢と希望を与えます。我々のやることはそういうことです。だからどんな嫌なことがあっても、一回校門で『エイ』と言って笑顔でいきましょう。夢も希望も与えられない、そうでないと。

つまり、それを授業化したのが特活でして、話合いの場を持って、みんなで為すべきことを合意形成する。自分が為すべきことを意思決定するという、学級活動の時間を設けている。つまり他の国では、これ必要ないんですよ。学校が社会ではないから。社会の問題は起きないので。その問題をどうするかというと、『はい、生徒指導の専門の機関へどうぞ。』『はい、教育相談の専門の機関へどうぞ。』と全部投げるんです。授業だけやれば良いんです。でも、日本人はどうか。勤務時間はどうか。生徒指導に費やしてるじゃないか。家庭にまで入って入り込んで、親まで説得して、人を育てようとする。だから私は、日本の教員は、世界一まじめで優秀だと言っています。他の国にはない。つまりローコストハイパフォーマンスを支えているのは、世界一まじめで、日本の優秀な教員たちです。

さて、そう考えると、Doをするための意思決定でなければならない。となれば、今日の分科会でも話題になったかもしれないけど、『決めたけど、これじゃ出来ないよね』っていうのは授業として足りなかったことです。そういう風に見るんです。授業がきれいに収まったからではなく、合意すべきこと、つまりみんなでこれをやらねばならないと思う、「思い」を集団決定したら、相当な困難を乗り越えていきますよ。それを合唱祭でも何でも、先生のために頑張っているのはやっぱりダメでしょう。まあ、そういうことだと思います。つまり、今までやっていた教員がああしろこうしろと言っていたことを、お前達どうするんだっていうのが、合意形成ですから。今までこうしろって個人が言っていたことを、『あなたどうしたい』『どうなりたい』『何

を考えた』って、こういうことです。これが授業化されているんです。その目的が達成されない授業であれば、意味がないということですよ。だから、特活が何か知識理解教科みたいになっちゃってる小学校もあるんですよ。歯磨きの方法みたいなのを教えてね。最後、「分かりましたか。今日分かったこと書いて。」教科じゃないんですよ。だから、わざわざ、カラーテスターで歯を磨いたあと、「私は赤い色がここについちゃうから、私の歯はこういう歯だから、これからはここを縦磨きで3回磨きながら頑張っていきたいと思う。」というのなら意味分かりますよ。それなら自分の問題を自分で解決する意思決定能力が付いたということですよ。

残念ながら、大学教員の私も、それから生徒も、学生も、教員も同じだと思うんですよ。3年後どんな教員になりたいですか皆さん。こういうことです。じゃあ、そのために何をやっていますか。残念ながら忙しいじゃないですか、今。私は、教員になって一番不幸なんですね。なりたくて教員になったのに。なんとなく毎日、惰性でやっていたら1日終わっちゃう。なんとなく毎日やっていたら10年くらいあっという間に終わっちゃって、あれってなっちゃうんですよ。意思決定って、こういうことを指します。学生に、「あんた今なに頑張ってるの」って聞いたときに、私はとにかく教員採用試験に合格したいので、毎日勉強しています。それすごく抽象的ですよ。でも、優秀な学生はこう答えますよ。私は、一般の入試では、数学が苦手なので、毎日2ページずつやっています。こういう子が伸びるんですよ。面接できっちり答えられないので、今問題を一字一句作って、毎日しゃべる練習しています。こういう子が伸びるんですよ。つまり、なんとなくの1日を、意味のある1日にするということですね。意思決定とは、そういう能力です。つまり、教員も同じってことなんですね。これはまあ生き方ですから、これはアクティブラーナーって言ってますけど、どんな家庭に3年後したいかなんて考え

ておこなきゃ。父親としてとか、母親としてとか、何をしてるんですか。親父としてとか、あるいは、妻としてとか。あらためて問われたときに、自分にその意思決定力があるかってことです。なので本当は、教員の授業もやってみたらいいわけですよ。学級活動(2)とか(3)とか本当にそういうんですよ。

さて、つまり、為すべきことを決定するから、行動に結び付くんで、為すべきことを、ちゃんと決定させられたら良い授業なんですよ。そのために目標、志を持たせることであるし、じゃあ希望をどう持たせるかってことであるし、だから、少なくとも希望を持てるような集団を作っておかなくては行けない。心が荒んで、端っこの方で震えている子どもが、何が出来るってね。毎日学校に来て、希望を持てる集団を教員が作って用意してあげなきゃ。だって、子どもが乗りたくて乗ってきた船じゃないわけですよ、学校って船は。学級って船も。たまたま乗り合わせただけなんですよ。しかも、義務教育をほぼ100%来てるんですよ、この国は。多くの国が5人に1人くらい来てませんけど、この国は100%来てるんですよ。つまり学校さえ来なければ、この子の命は、まだ保てたのにつて、そういうケースが出てくるんですよ。

もう一度申し上げます。なんか教えてやってる感、とは全然違ってね。子どもたち自体は、来たくて来ているわけではありません。来なきゃ親も罰せられるし、義務教育っていうのはそういうことです。だから私は、義務教育の教員はね、誰も不幸にしないってことをちゃんと出来てから、知も徳も体も伸ばした方がいいんですよ。学校生活で楽しいことの第一が、友達なんだよ、子どもは。でも学校生活の中で、不安なこと辛いことも友達なんですから、第一位は。調査結果によると。ここに、きっちり日を当てないといけないんじゃないかと思っています。その上で、種まきをちゃんとする。ちゃんと期待している。要求もしている。期待も要求もせずに、頑張れ頑張れって言って、

言うこと聞かずに上手くやらなかったら、みんなの前で叱りつけて、吊し上げなんてやり方、古いでしょう。そんなんじゃ頑張らないでしょう、子どもは。昔と違うから。そういうことだと思います。

つまり、効力感や達成感があるから明日への希望を生み出すんですね、子どもは。効力感ってのは、簡単に言うと、自分はやれば出来るっていう感覚です。その反対は無力感です。一番最悪なのは、新学期始まってすぐ、どんな風になりたいかって、学習、生活、人間関係一個ずつ書きなさいって言って、書いて、うしろに貼って終わりってやつ。これ、無力感をどんどん養います。だって、どうせやらないんだから。先生が願っていることを書いて終わりにします。どうせやんない。

意思決定というのは、苦手なことを頑張るためなんです。漢字を2ページずつ書かなきゃいけない。体力を高めます、じゃだめなんです。毎日二周ずつ校庭を走るって書かなきゃ。そういう風を書いてあるのをうしろに貼ってあるのならば、意思決定能力のある子どもたちだなんて私は思うし、意思決定能力をちゃんと育てようとする授業になっているんだな、学活になっているんだなと、私は思います。ただ書かして貼った物は意味がありません。またいでも跳び越せるようなハードルを作る人はいない。絶対やらないハードルだけでも点は取れませんしね。こういうことは無力感を養います。マイナスの効果があるってことを含めて理解しておいていただきたいと思います。なんらかの成果が上がるから、達成感や効力感に結びつくし、成長が実感できてこそ、自分もやれば出来るって思うんですよね。つまり成長を実感できて、効力感・達成感が味わえるということは、どっかで振り返りをやらなきゃいけない。今後に結びつけなきゃいけない。成果を活かそうとする、という意識を持たせて、内省できるようにする。といった、この青の資料、プロセスに応じてしっかりやっていかないと、これ続かないんですよ。だから、特活は難しいんですよ。

特活っていうと子どもが主役っていう答えが先生からおりちゃって、放任と勘違いになってるところがありますから。子どもに任せた方が数倍大変ですよ。自分でやった方が早いですよ。教え込んだ方が、ずっと楽ですよ。だけどね、子どもに任せなきゃ『アクティブラーニング』だって、『特活』だって出来ないじゃないですか。私は、こういう意識改革ができて日比崎中学校の先生は素晴らしいと思うね。多分授業改善の研究をずっとされてきたから、特活の道にも入りやすいし、特活で学んだことも、授業に活かされやすいんだろうと、そんな風を感じたんですね。

つまりDo, 振り返り, 改善ですね。こういうことをしっかりやりましょう。それを繰り返すことで、こういう子どもたちに結びついたか、ということをお問わないと、一個一個の授業がどうだったかってやっても、あんまり意味がないんじゃないかなと思います。だって、分かったとか、分かんなかったとか、そういう問題じゃないんだもん。為すことによって人間を変えようって話だもん。だから、優秀な教員がちゃんと寄り添ってあげないと、特活の効果が上がらないと私は思っています。

でも、そういう力がなんで必要なんだろう。Society5.0 (ソサイエティ5.0) って言ってますけど。Society1.0は狩猟民族、動物を追いかけました。あの時代に今の学力は必要なかったでしょう。それがSociety2.0, 農耕民族になって、村を作って、あの頃からはずっと人間関係に悩んでいますよ。未だに、解決してないですよ。子どもたちはどうするんだろうね。そして、Society3.0の産業革命時代で、同じ等質の技術と知識を持った人間を大量に育成する学校教育をやったんですよ。その頃の学校制度と、今はまったく変わってないってことです。相変わらず、何をいくつ覚えたか、その点数で話してるんですよ。こんな授業意味あるのかな。そもそもこんな学校いるのかって話ですよ。だって、ネット調べりゃいくらでも出てくる。それを教え込んで何の意味があるのってことです。

でも、それはなかなか受験の問題があつて、変えられないんですよ。それで、いよいよ受験を変えることにしたんです。秀吉は刀狩をしました『刀狩とはどんな制度改革ですか』っていうのがこれまでの受験問題です。知っていれば答えられますけど、知ってなかったら何か意味ありますかってことです。それをどう変えようかと言って、今の中学2年から変わるのかな。『秀吉は、3つの大きな制度改革をしましたが、一体秀吉はこの3つの制度改革を通して、どんな日本の国にしたかったのでしょうか。』という問題に変えようとしています。と言うことは、暗記しても意味がないということです。知っていることを根拠に、多様な考えがあることを前提として、「私は」を主語にして、秀吉に成り代わって物を言う能力は、汎用性があるってことです。

私たちの海馬は、ハードディスクじゃありませんよね。ハードディスクだったら、皆さん大学4年まで英語学んできたんだから、英語使えるはずじゃない。でも使えない。なぜ使えないかという、アウトプットしていないから。使っていないからです。つまり使わないで覚えたものは、ほとんど役に立たないってことです。でも、外国に3年も行ってきてください。前に学んだことが全部戻ってきますから。シナプスでつないでいくと、ここにインデックスやタグを作っていますから。これを活用学力と呼んでいます。だから先生が言った言葉をそのままなぞらえて言っても意味が無いんです。自分の言葉に置き換えて説明しなきゃ。数学で一単元終わったら、A4一枚で学んだことをまとめられるような能力が一番高いんですよ。だから単元計画の最後にそんな活動を入れているのは、本当に使える能力にするためですね。だから、このことをどう考えていくか、ということです。

まあ、こんな風にテクノロジーの世界になりますよね。そして、結局、生きているうちのほとんどが働いているわけですから、私たちは。そして、こういう職業はなくなるんですね。いらなんでしょうね、たぶん。買い物はほと

んどネットでやるんでしょう。物を見に行ってるだけでしょう。私が泊まるホテルも、迎えてくれるお姉さんはロボットなんですよ。めちゃくちゃ美人ですよ。これ変なホテルじゃないんですよ。全国チェーンなんですよ。「杉田ですけど、どこの部屋ですか」って言うと答えるんですよ。怖くないですか。でもね、マクドナルドのお姉さんと同じなんですよ。背中がかゆいんですけどって言ったら、固まるんですよ。問答集に入っていないから。まだまだAIはだめなんですけどね。そういう意味で言うと、実は、創造性を必要としない仕事は、すべてテクノロジーで代行できるようになるって言われているんです。何をどれくらい覚えたかなんかは、どれくらい役立つのかって話。大学時代、良い大学に行ったからといって、そういう教員が良い教員になったかっていうことです。そうでないものが、とても大事なんじゃないか、ということでしょう。

(ソサイエティ 5.0 動画)

時代は変わるんですね。そのうちね、長生きしたかったらAIが決めたもの食べて、AIが決めた時間に寝て、AIが決めた時間に起きたら長生きするんです。これって幸せですかね。

(The Futrue of Work 動画)

実はこれ、海外のアメリカではとっくのとうにやっています、仕事の未来ってやつですね。こんな時代が来るけど、子どもたちは準備できていますか。学校教育は産業革命時代の、学校のままでいいですか。定型的、記録的なことは全てAIがやってくれます。じゃあ、人間は何が出来るか。実は、50年後になったら、働かなくていい世界がくるかもしれないって言われているんです。このAIのコントロールだけなんだそうです。そしてなんと、恐ろしいことに、100年後は、不老不死になるって言われているんです。細胞の研究が進むんです。何が幸せなのか。学ぶって何なのか。働くって何なのか。つまり、生きるって何なのか。改めて問われているんです。

つまりね、ビックデータを活用できるんで、一人一人にあった学習スタイルが取れるようになります。遅れている子は、遅れている子のように。多くのデータがありますから、それをAIがコントロールすると、必要なものが得られるということです。スタディログと言って、その学びの過程も全部残っています。実はもう、学校に来れない子でも学校に通えています。VRの世界で。ネットの上で、VRの学校ができています。ランドセルも買っています。運動会も寝そべっていても、参加できます。

いったい、我々はどんな人間を作りたいのか。学校は、どう教育としての役割を果たしていくのか、こういうことが問われるようになっていきます。私は、AIのために人間が生きることは、やっぱり最悪でしょうね。人間中心の社会の方がいいし。国は人間の強味を言っていますが、私は、人間の強味って当然のことで、人間としての幸せ、喜びに裏付けられないものに意味がないと思っています。みなさん自分のためだけに頑張れますか。人間一人で生きられますか。ああ、死ぬ時は一人だから、孤独には強くなったほうがいいですよ。だけど孤立したら終わりでしょ。校長が責任取んなきゃいけないから、孤独に強くなきゃだめですよ。最後の決断できないんだし。でも孤立したらやっていけないでしょ。こういうことをちゃんと教えないといけないんじゃないかと思えます。人間は自分の幸せだけでは生きられないってことですよ。だから、自分のためにも、人のためにもどう考えたらいいのかって、生き方は自分で決めたほうがいい。どういう社会を作って、どういう人たちが役割を果たしていくかっていうのも、人間が決めた方がいいと思っています。

残念ながら合意形成は弱くなってるって言っています。学級会でさえ合意できません。私は教員の学級会からやってもらいます。特活の研究校には。職員旅行どこに行って、何をやるか、学級会やってみてと言って、議長団を出してやってもらいます。教員同士が、結構大げんかになります。

教員が合意できないんですよ。自分の言いたいこと言うけど、人の話を聞かないんです。反対意見は言うけど、代案は出さない。気に入らないことが決まったら、協力しない。人間の社会で生きていけますか。そういうことをちゃんと教えるのが、あの学級会なんですよ。何が決まったかって大事なんだけど、こういうことを繰り返すことで体験しているってことですね。世界平和のために合意形成する場所が国連です。出来てますか。違いや多様性をどっかで認め合う以外に、共に生きていく方法はないんですよ。相手の言っていることに耳を傾けて、どっかで許さなきゃやっていけないんですよ。ところが、日本人、今どうなったか。皆さんどう思いますか。私は、この国が心配だ。だってさ、何か問題起こしたら、皆ネットで攻撃して、二度と立ち上がれなくするような雰囲気がないですか、いまの社会に。そんな雰囲気だから、いじめが起きやすいんじゃないですか。学校も、親も、重箱の隅つついてね。なんで許さなかったんだろうって思わない。日本人は最も世界で寛容性と謙虚さのある国民って言われているんですよ。日本らしさがそこにあるんですよ。人を許すことで出来てるんですよ。

私、この間、思わず立ち上がったとき、隣の人が持っているお茶をこぼしちゃってさ。すごい美しい服にかかっちゃったの。そしたら、その人、何て言ったと思う。「いいえ、お互い様ですから」って。俺、この人にお茶をこぼされたことあったかな。でも、違うじゃない。人間は間違えることがあるっていう存在だと思うから許すわけじゃない。教室は間違える所だと言ってらんじゃないの。間違えていい場所だったんじゃないの。それを責め合うような教室になったら、いじめが起きるのは当たり前ですよ。もう少し、社会の作り方みたいなものを考えていくべきなんじゃないかと、そういう風に思いますね。

いずれにしても教員はAIには絶対できませんから。文科省にこういう人がいたんだよ。「差がありすぎるよ、教員には。熱心な人もいるし、そうじゃない人もいるし。」

授業上手い人もいるし、上手くない人もいるし。一番、優秀な人に授業やってもらって、ネット配信したらいいんじゃないか。子ども集めることもないから、いじめも起きない。校舎もいらない。」って言うんだよ。教育ですか、これ。何のために、人間が人間を教えているのか。何で出来る子ども、出来ない子ども習熟度別にしないで、教室の中に閉じ込めて、社会作って、社会経験させてるのか。何てこの意味が、段々問われているんじゃないかなっていう風に思っています。

実はこれも、その辺は詳しいこと言うことはできませんけれど、キャリアの基礎的汎用能力の4つの発達が出されていて、これを学校ごとにそれぞれ考えてねって言うんですよ。つまり将来必要な力を並べた上で、今の子どもたちに何が足りないのか、4つのことをやらなくてもいいけど。「この細かいのが例示だから、学校が決めてね」って言って「これでキャリア教育やった上で、キャリアパスポート作ってね。」って言うんです。もう来年4月から始まる。たぶん間に合わないです。教育委員会によって差があるわけですけども。

それと、特活が要になっているわけですからね。少なくとも、課題解決の対応能力がまさに必要なんです。問題を個人で解決するか、みんなで解決するか、しかないんです。このプロセスが特活のプロセスですし、まして社会参画の人間関係も、そこでやっています。そして自己決定をして、自分を調整するというやり方ですから、まあキャリア教育に資するわけですよ。ということを改めて考える必要があるんじゃないかという風に思います。

(「花を支える枝」の図)

「花を支える枝」という詩を、相田みつをさんが、お作りになりましたが、私は花を子どもに例えるなら一行を加えたい。それは根を支える土壌です。つまり根も土壌も見えません。これを風土と言います。それで、みなさんもおわかりの通り、子どもが育って学び、意欲が高まって、自

尊感情を持ってば、いじめが起りにくくなる。いじめが起きないような学級ならば、学力も上がります。つまり一石二鳥の風土作りを、学級経営と言ったり、生徒指導と言ったりしている。この風土や空気作りが荒んでいては、残念ながらそこにいるだけで子どもが荒んでいく。さっき言ったように集団で経験を通して人間は人格を完成させると社会学者は言ってますから。ひどいクラスに入っちゃうと人格まで変わっちゃうから。親は「担任を変えろ」って言うわけですよ。少なくともそのことぐらいはちゃんとやろうよって思いますよ。

ただどね、教員の方だけで作った学級は、残念ながら担任が変われば元の木阿弥です。力で抑えてしまえば、優しい先生の前で問題が出てくるだけの話ですよ。大事なことは、子ども自身にそう願わせなければいけないってことなんだろうって思いますよ。

つまりね、そうしていくためにはまず、日比崎中学校がやっているように授業研究ですよ。学習したことを、自分の言葉で説明できる。他者の意見を聴いて、比較したり、触れたりして、深く考えられる。なんていう当たり前の授業をおやりになっているってことなんですよ。

要するに「話す」と「聴く」しかないんですから。なんとなく聴くを小学校なんか見てみるとね、しつけの対象にしている先生が多いね。「手は膝で、背中の伸ばせ」とか、「うなずけ」とかね。一番最悪なのは、リアクションの方法まで教えている先生いるよね。「わかりましたか」「わかりました」しかないんだ、答えは。でね、もっとすごいのはね、「なるほど〜」ってみんなが言う。怖くないですか、この授業で。セリフなんだよね。「なるほど〜」っていうセリフなんだ。そういう形式を教える意味ありますか。

そのね、別シーンで、話しているけど話し合っていない。人の話を聞く前から立っているっていうこと。そんな授業でいいのかな。だって授業は「拡散」と「収束」だよ。拡散の時はかまわない。いろんな意見があるから。

広げるだけだから。だけど、収束の時には誰かが物を言ったら、そのことについて物言わなきゃ、話し合ったことにならないじゃないですか。話してるだけじゃないですか。こういう当たり前のことが出来るようにする。

みなさんは自分にとって不都合なことを言う人の話を聴きますか。聴く人は、そういう人の話を聴いたら自分にとって役に立つと思っているから聴いてるんですね。だから、しついで教えるものじゃないんですよ。

発達障害系の子が、何かあのちょっとピントがずれたようなことを言ったら、これって実は役に立つ、深めるためにとても役に立つって思ったら、そういう認識を持ったら、子どもは聴くようになるんですよ。

聴くとは何ぞや。なんてことをちゃんと、昔は、体得させてた。今はしつけにしている。だから怖い先生じゃないときは聴かない。調教に近い。こういうことを、もう少し公教育として見て行くっていうことが大事なんじゃないかと。

そして先生より良い先生、これはちょっと、とっても上手。深めるから、こういうことは。特活は、こういうことに見えられたことを使って、学級の問題を解決したりするような時間なんで。自分の問題を。まさに日比崎中学校は、それをやってきたから、一年でここまで来たと思いますね。敬意を表したいと思います。これを鍛えていただいていたかのように繰り返すことで、実は共感とか質問とか価値付けとかを生徒がやるようになるんですよ、だんだん。特活って、それ任せちゃうんです。だから、特活やるってなると司会がいります。なるほど素晴らしいですね。あの子は、私はすごい共感しました。切り返しますから。「そう言ったけど、本当にその意味は何とかがって言ったけど、それ本当のこと。」とか、「それどういう意味。」とか、切り返しますから。これ、まさに主体的な学びなんです。つまり、教員の役割は、手を挙げて代わりに言ってあげることじゃないんです。そういうものを引き出して、「素晴らしい、今の切り返し、素晴らしい。今の共感素晴らしい。今の質問

とても良い。」って、これをやることなんですよ。そしたら子どもがやるようになるんです。そしたら先生が離れていても、もしかしたら同じ学級の中で複式をやります。だって勉強できる子は勝手にできる。先生が本当にきびしい子に寄り添うことができるかもしれない。そういうことも出来るんです。

ということを私は繰り返すことで学びに向かう集団になるし、特活が何を決めたかよりも、どれだけ相手の気持ちに寄り添えたか。どれだけ少数意見に配慮できたか。何ていうことをほめたら、いじめとか人間関係上の問題は未然防止する風土も出来るのではないかなというわけでございます。そのことを繰り返してやるんでしょうね。

(支持的風土をつくる学級会などの話し合い20のチェックポイント)

20項目ほど「あなたの学級どう」「あなたの学級会どう」っていうのを項目で、20項目ほど挙げてみました。あとでチェックしてみてください。

少なくとも、途中で物をしゃべりながら止まってしまった子どもを、何分待てるかです。子どもが。「早く言えよ」ってこうなりますけどね。そんなんで見たって、すぐ分かりますよ。そんなクラスで学級会やったって意味ないんだもの。みんなに配慮するなんて考えられないんですから、そういうことをちゃんと育てられて、特活は力を持っていくと思いますよ。(日比崎中学校の全校合唱の映像)

ただの挨拶だけど。身構えだからね。大事ですよ、こういうことを教えるのは。形を教えているとは言えますけど、何のためにしっかり挨拶しなきゃいけないかって分かっている子どもが、自分で意思決定によって、あの挨拶しているのがすごいよ。ただ叱られるからやったっていうんじゃないんだから。そういう顔していたって、私は思うな。何か教員が価値付けしたかもしれない。「今日いっぱい先生が来るから。」「日比崎中のプライド見せよう」って言ったかもしれない。それでも十分OK。それがないからなんですよ。

尾道がみんな、校歌をこんな真剣に歌える中学校なのかな。今、高知県に行ってるんですけどね。生徒指導が増えてめちゃくちゃな学校なんです。教員が出張に行けないんです。出張行ったら荒れるから。毎日何かあるんです。校歌が歌えないんです。こういうことは、私はすごい重要だと思うなあ。まあ、ちょっとこういう変わった子もね、一生懸命が否定されないんです。正義が通らなくなるんですよ、中学校は。正義が通らないやつが5、6人に出てくるともう終わるんですよ。他の子も、みんな変になってくるんですね。そういうことはちゃんと改善できる。そういうことに特活は寄与できると、私は思っている。

(Yes, we can の図)

もうこれいちいち細かいことは読みません。あの資料にも、お配りしているの、これは Yes, we can。つまり集団の問題を解決するために、やる活動の中で体験させたいことを並べてあります。ご関心のある方は、ぜひ読んでください。つまり、このような体験が学級会を何回やっても出来ないのであれば、残念ながら特活の目標を達成できない。為すことによって学ぶんだから。少なくとも何か問題があったら、集団に働きかけて解決するっていう子どもになってなきゃ。社会の問題に対応できないじゃないですか。そうやって解決したり、学級の問題を解決できたって経験しなきゃ、大人になってやらないじゃないですか。そういうことって。力づくで解決した方が早いじゃないですか。そういう学級会になっているかっていうことです。相手を分かり合わなければだめなんですから。この学校みたいに、分かり合うってことがちゃんと入っている。すばらしいよ。合意形成の場合。分かりもしないうちに、合意形成しちゃうんだから。みんなが「空気読む」どうなのかな。

(学級会の映像)

話す、ではないんですよ。語るでしょ。どうしても意見があるんなら、大きい声で言わせよう。どうしてもみんな説得したいと思ったら、ちゃんと理由はつきり言いますよ。

何となくじゃだめですよ。今日の3年生の授業で似たようなことが出てきましたよね。リーダーが必要なんだ。何か語り合っていますよ。でも、そんな学級会でできてないんですよ、最近。もっと昔は、中学校もちゃんと話し合ってた。そこがすごく気になってる。今日はありがとうございましたね。本当にお忙しい中を。

(1年生の授業の写真)

授業をやっていた1年生なんですけどね。残念ながらね、荒れてる中学校にね、どんな高級カメラ持って行ったって写真撮れないの。こんな顔してないよ、子どもが。私は、一個一個の授業ちゃんと見てないから分かんないけど、少なくともみんな良い顔してる。別に何分しか居なかったけど、良い感じに、良い写真が撮れる。それも成果ですよ。みんな真剣に考えているよ。学級の問題だよ。これ考えたって点数付かないんだよ。成績にもなんにも響かないんですよ。大事じゃない。と私は思った。

あつ、ただこういうことはですねえ、出し合いなので、出し合ったら、できるだけですねえ、分類整理した方がいいです。付箋と同じなんです。わざわざ時間が来てないときはですねえ、いくつかこう動かすことが出来る。操作性があるということ。つまりKJ法を黒板でやってるってことです。だから最近、このホワイトボードミーティングはちょっとこう横に広いので、短冊的なことも出来るんです。小学校でも、一般的に短冊でやってることを申し上げておきましょう。

(2年生の授業の写真)

次、2年生ですねえ。先生との距離感もいいよねえ。アクティブは、頭ん中を指すんですよ。活動、パフォーマンスじゃ意味ないんですよ。どれだけ生徒が頭ん中で、頭を動かしてるってことですよ、アクティブとは。それが良い授業ですよ。ねえ。

そして、最後やってくれたのが、Yes, I can 意思決定の授業です。意思決定を、やりたいならこういうことです。

あとは読んでおいて、時間がないから。つまり「つかむ」「さぐる」「みつける」を、まあ今日貼ってほしかったんですけど。「つかむ」、まあ問題が何かつかむんですよ。次に「さぐる」ことは2種類あって、もうはっきり決まっているんですね。原因か、何でやんなきゃいけないか。必要感か、原因、どっちかやるか、両方やるかですよ。それをやんなきゃ決められないから。で、じゃあどんな必要感があるか、みんなで決めて、最後に私がどうするってことですよ。これを「つかむ」「さぐる」「みつける」「決める」で小学校がやってる。まあ、いわゆるユニバーサルデザインの関係なんですね。この「つかむ」「さぐる」「みつける」「きめる」「出し合う」「比べ合う」「まとめる」を合わせて、これを教科でも使うんですよ。つまり「つかむ」とは「めあて」ですよ、「目的」。そして「さぐる」を入れたり、「比べ合う」を入れたりして、最後に「まとめ」を振り返ったりして、あるいは「出し合う」で「まとめる」をやったりして、これを組み合わせて、教科でやるんですよ。そして、プロセスってものを可視化できるんですよ。授業の全体像が見えて、今何やってるかわかるんですよ。こういうことを応用すると、実はいろいろやれることはいくらでもあるんですよ。

例えば、ジュースを飲んじゃってるけど、甘くて体によくないことは知ってるけれど、飲んじゃってる私たち。だから「つかむ」わけですよ。あんたたちそうだよって。わかっちゃいるけど。やっちゃってるよ。じゃあ、本当にどう飲んでいるか、調べてごらん。

「さぐる」。「さぐる」のポイントは、ちゃんと専門家呼んできて「あんたたち、このままいったら間違いなく糖尿病になるよ。成人病になるよ。」って悲壮感を煽る。その上で、じゃあどうすればいいかって、ここで班の話合い持てばいいんですよ。いろんな情報を共有する。で、いっぱい出てくる。それを並べて、最後に自分で、そのことを参考にして、いつどうするかを決めるのが意思決定。「部活の後、

自動販売機で飲んでいたアクエリアスをお茶に変えました。」「家でジュース飲んだら夜20分間運動します。」こういう意思決定ならやりますけど。悪い授業どうやってるかっていうと、「これから気をつけます。」何を気をつけるんだ。「これから甘い物はとらないようにがんばります。」はい、終わり。それでやるなら、とっくにやっています。こういうことが授業改善ですよ。いかに覚悟のある意思決定させられるかが授業の、本質なんです。じゃなきゃやらないから。

(3年生の授業の写真)

3年生はそれやって、頑張ってくれていましたよ。まあ、意思決定を、少し漠然とした話をしましたけど、これは改善がすぐできます。なぜかって言うと、先生も生徒もいいから。やり方さえわかればいくらでもできるから。大した問題じゃないと思います。

(生徒の写真)

あ、別に、私の好みってわけじゃないんですよ。あまりにもこう動きが良かったので、撮ったんですけどねえ。どうですか、みなさん。

(写真スライド終了)

ああ、終わりましたね。本当に敬意を表したいと思いません。中学生でも、こういう授業ができるんだと思ってね。すごく感激しました。

(研究校の映像)

特活5年やった研究校です。みなさんの学級は、苦しいことは苦しいって、自己開示できる学級になっているのか。何のために大人の人がいるのかって話です。なるべく手分けして、苦しいことは苦しいと言えるムード作ること、やめてほしいことがあったら、やめてほしいとちゃんと言え子どもにすること、なんですよ。ちゃんと授業で取り上げれば、すぐこうなるんだし。ちょっと変わった子で、パフォーマンスやる子だから、ああいうことやられるんですけど。

そういう子を許容しないとやっていけないじゃないですか。あの子自体変わらないじゃないですか。周りが受け止めないと。そして5年生になってました。ずいぶん顔が柔らかくなった。これで一人救えるんですよ。こういうことをすごく、私は大事にしてほしいと思う。ただし特活はですね、「望ましい集団活動を通して」と目標で言ってきましたが、今は「互いの良さや可能性を發揮しながら」という言葉に変えています。つまり、集団によって個が否定されたり、攻撃されたりしないような集団活動を指しています。残念ながら日本の集団性の高さは、いじめを生み出しやすいです。村文化があるから。村八分をやるからです。葬式と火事、これだけやってあげるよって言うんです。つまり、競争的に物を取り扱いやすいんですよ。

日本の教員に一番多いものは何かというと、「はい、この列一番」「はい、今日は男子が早い」「はい、この班最初が一番できた」って、こういう競争的にもものを評価するということなんです。これが日本の教員に多い。だから、こういうことが出てきます。こういうことをやります。お掃除の名人から見習いまで分けたら、みんな頑張りますか。どうですかね。読書して、一人だけグラフが伸びている子と、ほとんど伸びていない子を一緒に貼ってあるのはなん。そういうものを貼っておいて、生徒指導研究校ですって。「え」って思うね、私は。それで道徳教育勉強していますって。「は」って思うね。教員の人権感覚を疑うね。教員の発言に対して、僕らもしますか。教員をランキングして貼りますか。やられたらどう思うか考えましょう。

これ小学校の教員が多いんですけど、やっている人は。「ビー玉貯金箱」って言うやつです。全員宿題やってきたら重いビー玉、みんな全員合格したら重いビー玉、忘れ物がなかったら重いビー玉。つまり、連帯責任なんですね。つまり「お前がやってこないからもらえないじゃないか」って言う元を作っているのは教員なんですよ。こういうことが日常的に、結構行われているんですよ。日本の教員は、

それが誰からも評価・指導されないんです。こういう問題が一つある。それで、もう一つ問題がある。これは中学校に多いんですけども、学級委員をミニ先生にする。それで、班を作って、班長を立てて、それに責任と権限を与える。これ軍事政治ですからね。はっきり言って。輪番にやった方がいいんです。誰がやったって、みなさんそうでしょう。良い教員って、良きフォロワーシップを發揮した教員でないと、良い校長にはなれない。子どもが子ども管理しちゃだめなんですよ。権限は全く違う。罰まで与えちゃったりするとね。この間も小学校で見て、ぶったまげた。朝の会で、学級委員が出てきて「はい、今日宿題忘れた人立って」って言うわけです。それで立ったら、その男の子に「なんで忘れたのか言って」って、これは教員がやることでしょう、本当は。私は、こういう風土が蔓延している中で、特活が機能しているわけ。そう思っています。それをしかも競争的に扱ったりする、これを班ごとで。かつて、よくね、広島でやっていたパターンですけども。そういうことを改めて考えなきゃならない。

【大竹中学校の「生命尊重の日」動画】

一つの命が失われるとはどういうことなのか。それをテーマに、生徒会も何かやることがあるんじゃないか。自治に力はあるんですよ。でもそのためには、話合えなきゃだめなんです。今日の学級会はとてもレベルが高かったけれど、一つだけ注文をすると、平場で話合っていない。中学校では必ずあるんです。あのようにした時点で少数意見は一切、「私は」ではなくて、「班は」ってなってしまう。小学校では、それをしっかり使い分けています。平場で話合っている。「私は」が主語のまま、ものを言えるようになるんです。ロの字にしましょう、まずロの字に。学級会を。でないと、ちっちゃい合意形成した物をまた並べてその中から選ぶってことになっちゃうから。何班の意見が良いからって。競争になっちゃうんだ。比較するのは、過去の自分と比較するんだ。別の人ではなく。(体育大会の映像)

こういう子どもたちなんです。確か、ちょっと記憶ははっきりしていないけれど、10項目だか、5項目だかを生徒会が目標に掲げたことがあるんですよ。毎年これをアンケート調査しているんですけど、全部が100%になったらやめるって言って悩んでる。なかなか100%にはならないんですよ。

一番人生楽しい時期なんですよ。中学生って。みなさん、ご自分の年齢を、分母に入れて、分子に1をかけてください。これが1年間の体感スピードです。40歳の方は40分の1で、今を過ごしている。50歳の方は50分の1。つまり年を取るとは、分母を大きくしていることであり、その1年が相対的に小さくなることを指している。つまり、1年が飛ぶように過ぎていく。生きてきた内の1年だから。小学生の中学年時代って7歳から8歳だから。我々の1年とは、はるかに大きく違う。だから自信を失わせちゃだめなんですよ。今だめでも、後から伸びる可能性はある。いま非行に走っているから、一生非行に走り続けるって決めつけられない方がよい。いま勉強して出来ないからって、一生勉強でき続けないなんて決めつけられない。我々がやることは、横に並べて順位を付けることではなく、その子自身の成長を読み取ることなんだ。

全校長縄大会、1000回挑戦したいって言ったら、競争的なのは扱いやすくなるので、1000回を目的にするなって言うと、実は望ましい集団活動になります。1000回頑張れって言うと、不得意な子どもは、必ず、そこで止めてしまう。でも競争させてはいけないって言うわけではない。こっちを目的にして、これを手段にすれば何の問題も無いんですよ。「いいかい、これは団結のためにやっているのだから、それが出来ないで1000回出来たって意味ないんだ。でも、1000回頑張ろうな。」これでいいんです。これで望ましい集団活動を通して、良さや可能性を伸ばすってことなんですよ。知らないより知っていた方がよいよね。こうして、チャレンジしていくわけです。

【長縄の動画①】

なぜこの教員は、ビデオを全部回していると思う？リフレクションができないからです。体験は消えてなくなっちゃうんですよ。キャリアパスポートについて知っていますか。中学校の教員は、小学校の指導要領をちゃんと読んでいますか。私は、ほとんど読んでいないと思う。なんか問題があったときだけ、引き出しから出てきているんじゃない。キャリアパスポートは子どもが持ち上がるんです、自分で、高校まで。ほぼ中学の教員が見ないって言っています。けど、子どもが何を頑張ってきたのかぐらい、知っていた方がよいんだから、みんな。あまり難しいことを考えない方がよいよ。簡単に書いて、簡単に見られるようにした方がよいですよ。何も字で書かなくてもいいんですよ。自分が気に入った学校行事、写真を1枚貼って俳句1個でもいいんですよ。苦しんだことを書いたっていいんですよ。何を乗り越えてきたかが分かった方がよいし、自分史なんですから、キャリアパスポートというのは。変な形式にこだわるから、逆にみんな枕木だけ作って、そこに文字を埋めてで終わっちゃうんですよ。使えってことなんです。友人関係で悩んだことも書いた方がよいんじゃない。なんで全員、体育祭なんだ。体育祭じゃない学校行事でも良いって言った方がよいんじゃない。みたいなことですよ。こういうことはみんな知っていただいて、ぜひぜひ本当に意味のある物にさせていただきたいと思う。つまりその過程を残しているわけです。まさに、スタディールームじゃないけど、体験ルームです。

【長縄の動画②】

話合いで解決したという経験が、子どもたちの力になるんです。でもだんだん面倒くさいから、得意な子が仕切るようになる。何か言おうとしても止めてしまう。だから、逆にこのリーダーが引っかかってしまったときに、周りの子が何と言うか。喜んでるんです。これが正義なら生きていけない。疑心暗鬼になってしまう。本人も泣き出す。

そして、やめたって言います。学級壊すの簡単なんですよ。あっという間に壊れるんですよ。作るのはすごい大変なのに。

【生徒が意見を言う動画】

だから話し合いが必要なんじゃないですかね。だから、学級会がちゃんと出来るぐらいの話し合いの言語能力や、話し合いの形式はちゃんと覚えておいた方が良くんじゃないのかな。

【話し合いの動画】

実はですね、形式的で、表面的に仲の良いクラスほど、学級は高まらないんですよ。失敗しないクラスは、残念ながら失敗から学ぶことができないんですよ。トライアンドエラーを繰り返すクラスほど、良いクラスになるんですよ。合唱祭で最初から男子があんな一生懸命やっていたとは、私は思わない。大体、女子生徒が最後には怒りまくって、話し合いに持ち込んで、あの姿があったんじゃないかと思う。そういうことを繰り返さなきゃ良いクラスにはならないんですよ。良い社会も。でも学級の感じは、そのこと分かっていますから。普段やっていないとできませんよ。そしてまあ、話し合いながらね、いろいろ1ヶ月間試行錯誤してまさに子どもの願いは、不登校の子も含め1000回チャレンジする。そういうラストになると思います。

【長縄の動画③】

すごいよね。絶対に出来ないと思っていた1000回が、出来ちゃった。だけど誰も出来るとは思っていなかったから、どこで止めたらいいか分かんなくなっちゃって、跳び続けたんです、最終的に。

映像で残してあると、振り返りが出来るんですね。失敗したこともちゃんと撮ってあるんですよ。話合ったこと。思いやりとはなんぞや、チームワークとはなんぞや、そういうことを考えるんですよ。その不登校だった子には、じゃあその子に最後の挨拶をしてもらおうなんて、良い場所を与えられるんです。実はこのクラス、他のクラスに比べて

10ポイント以上成績が高いんですよ。特活の研究校が、学力が高くなるのは、たぶんこういうことが影響しているんです。私に関わった学校で、ああいう風なことは一つもないので。人間はそういう所で力が発揮できるようになったのかもしれない。

【卒業式の動画】

高知県教育委員会は、生徒指導が並外れて大変なんです。これまでの施策は、生徒指導や学級経営の様々な手法を伝えて、色々なアイデアを本にまとめて広げるということをやってきたんですけど、Q Uもやっていますし、エンカウンターもやっていますけど、残念ながらそれはそれとして、失敗はどこにあったかという、みんな好きなものを、勝手に好きなことをやって、結局学級担任任せになっている、生徒指導も学級経営も。みんなが同じことを1つやって、みんなで作るような方法でしない限り、効果は上がらないということに気付いて、「特活を使って、生徒指導の問題を解決する」「学力を上げる」という学校を五校、一緒にして、そういう覚悟を教育委員会は持ったので、年間20回行きました。話し合いが出来るようになりました。中学校が口の字で話し合いが出来るようになりました。ものを言えるようになりました。意外と落とし穴があるかもしれないけどね。

自尊感情はとても重要です。これがないと人間頑張れないんで。それをどれだけ与えられたかが、その子の柔らかい表情をどうやって生み出すかということにつながるんで。今日のように柔らかい表情がたくさんあるっていうことは、お互い否定し合ってはいない、ということですよ。

実はですね、自尊感情は二層構造になっていまして、こちら側が競争で勝ち得た自尊感情と言われていまして、表面的で、際限が無く、一過性の感情。つまり、ずっと一番はあり得ないから。ずっと優秀で来た子が、社会人になって、いきなり飛び降りて自殺したり、いきなり辞めたりする人がいるでしょう。教員の中にも時々いるけど。

あれ、このタイプなんですよ。比較で、ずっと褒められてきた子が、ずうっとはうまくはいかないんだから。ポキッと折れちゃうんですよ。もっと根源的な自尊感情がとても重要で、でない、優秀な子しか持てないことになっちゃうわけ。つまりそこに必要なのは、ポジティブな社会と言われていて。つまり、「どんまいどんまい」と言ったり、「失敗、大丈夫だよ」「もともといつも出来てるじゃない」と言う子が周りに居たら、「じゃあ私も、意味がある」「役割がある」「生まれてきて良かった」なんてことを感じるような、そんな集団を作らないと実は自尊感情は育たないと言われていて。自尊感情というのは実は、「わがまま」と「うぬぼれ」と紙一重となんですね。「俺のやっていることが、やっつけてなぜ悪い」なんて言う若者が、そこら中にいて、あの人たちは自尊感情が高いんですよ。あるいは、非社会的な団体の方たちは自尊感情高いんですよ。社会出たら役に立たないんですよ、そういうのは。だから社会との関係の中で自尊感情を育てたいならば、特に自己有用感、他者評価によって得られるという特徴を持っているので、それに裏打ちされた、裏付けられた自己有用感、裏付けられた丁寧な自尊感情といったものを育てていくと実は社会が良くなるのと同様に、集団も良くなる。ということですから、そこに介入する教員の役割というのは、とってははっきりしているんですよ。いちいち比較で褒めないということ。なんで日本の子どもは、マラソン大会でビリーになって、一番拍手をもらえるんだらうな、とか。なんで普段出来ない子がちょっと頑張ったらみんな褒めるのだから。こういう普通の健全な感覚を大人によってねじ曲げないように、ぜひしてもらいたいと思います。

実は、一番難しいのは学級会の議題なんですよ。中学校に議題がないんですよ、残念ながら。かつてのようにもっと余裕があった時代は。授業が終わってもう生活なしだった。生活がないところには、議題がないんですよ。だから出る議題はみんな、生徒指導的な事ばかりなんですよ。学級

の団結とか、協力とか、5分前着席とか。そういう話合いなんですよ。どうしても。あとは行事の話合い。行事しか生活ないから。合唱祭とか遠足とか。そういうことしかなくなっちゃったんですよ。昔はもっとドロドロした話合いをしたんですけどね。話合う力がなくなっちゃったので、話合いの方法もわからないので、話合えない。こういうのは、微妙に感じますよね。とくに協働性が高いのが多いんですけど、タイミングが良いのもあるんですが、切実感、やりがいみたいなものをなかなか生み出せないんですよ。それを生かさないと、実は、子どもは真剣に話合わないんですよ。

本当に必要なのは、話合いですよ。どうしても解決しないきやならない問題があったら、話合いますよ、子どもは。そういうものを生み出す「議題」が難しくなっているのですよ。

【動画「友情のエチカ 運動会で揺れる友情」】

(1996年神奈川県城北中学校2年1組。その中に軽度の知的障害をもつ少年がいました。「あべさとし」さん。勉強や運動が他の生徒よりすこし苦手な彼は、まわりのみんな気を使い、自分の意見を言わない少年でした。クラス対抗で行われる大縄飛び競争、6分間、クラスのみんな気持ちを1つにして飛び、大縄跳びの練習でその事件はおきました。運動の苦手な少年はなんと練習しても縄に引っかかってしまいます。みんなで声をかけてもどうしても少年は飛ぶことができません。いっしょに飛ぶのが平等なのか、それとも外すのが思いやりなのか。クラス全員が悩みます。大縄飛び競争で少年は・・・。2年1組が少年の了承を得て出した結論です。そのときも少年はいつものように何も言いませんでした。少年の応援の中、その後クラスはどんどん記録をのばして行きます。予行演習、合計123回で1位。みんなそろった声での勝利でした。それは運動会前日の出来事でした。担任の先生「彼女が喋る前から言いたいことはわかっていたので来たのならやろうと話合いを。」放課後クラス全員で話合いが設けられました。一人一人が意見をぶつけ合います。「何で今頃言うんだよ！」運動会を翌日に控え、怒りを露わにする生徒もいます。「勝ちたいからあべちゃんを入れたい」、「あべちゃんを入れてみんなで飛びたい」。なかなかクラスの意見はまとまりません。途中採決を取ります。36人中あべちゃんを入れて

飛ぶが12人、応援係になってもらうは13人。それは何かをおきざりにした話し合い。そんな中一人の生徒が立ち上がります。「俺たちが決めるんじゃないわ、あべちゃんが決めることだよ」みんなが少年の言葉を、待ちました。「・・・跳びたい」少年が心の底から絞り出した言葉。それは初めて自分の想いを主張した瞬間でした。班ノートにはある生徒のこんな思いがつづられていました。

「放課後みんな残ってあべちゃんの事を話し合いました。金子さん鈴木さんの泣き顔、まだ頭の中から離れない。あ、そうそう、先生の泣き顔おかしかったな、先生必死になって泣くの止めようとして、ああゆうときは、泣いていいのに。そうして迎えた運動会当日、午前の部を終え、午後にある大縄跳びを控えた昼やすみ。2年1組の生徒は、最後の練習をおこないました。みんなのかげ声でまわした縄には、やはり少年の足下で止まります。そして、大縄飛び本番を迎えます。生徒の母親が偶然撮影したその映像には、クラスみんなで見つけた勇気が写っています。一度も跳ぶことができないまま本番へ。一回目、二回目。そして・・・少年を1人の生徒が抱きかかえて、みんなと一緒に跳んでいました。競技中であることを忘れて、生徒全員が飛び上がって喜びました。そしてやがて支えもなく、少年が自ら、縄を跳び始めたのです。2位 4組132回 3位 2組107回 4位 3組81回 5位 1組71回。最高の雰囲気です！みんなで心をつなげて作った思い出です。その日の班ノート。少年がこんな思いをつづっていました。「今日のボクは絶好調でした」。競技中、心配の余り生徒の足下ばかりみていた先生は、あの日の班ノートで初めて知ったことがあります。「みんな跳びながら泣いていました。」)

まあ、グループエンカウンターのように構成的にはなっていないですね、非構成的で何が起こるか分からないんです。でもまあ言えることは、大なり小なり、皆さんこんな経験していませんかってことです。あるはずですよ。教員一生やってこういう経験一度もしないまま終わった人って、私はね、かわいそうな人だと思うよ。教員にとっても、生徒にとっても、とても重要。ただこういうことを生み出すためには、ふだん何か問題があったら話し合いで解決するって子どもになってないといけない。話し合いの方法をちゃんと分かってないといけない。良い合意形成は、良い行動を生み出す。良い意思決定も生み出す。と、よく言われています。集団の目標しかないチームは弱いよね。そこに、個

人の目標が同じ方向を向いて乗り込む船になっていけば、そんな強いものは他にはないわけで。まさに、そういうことを生み出すことで協働性を学び、社会生活に活かしていく。その中で、個人と個人の関係性をも埋めていく、ということなのであります。ある一定のルールの中で、こういう非日常が起きるとのことだと思えるので、すべてが偶然ではない。特活の道筋があつてこそ、こういうドラマが生まれると考えたいと思います。

ところでみなさん、なんで先生になったんですかね。それもよりによって中学校。試験も受かりにくいし。私は、18年間小学校しか経験ないんですが、中学校の何が楽しいのかなって思っていました。中学校は、本当に一から作るような仕事なんでね。でも今、大学の教員になって感じるのは、同じなんです。大きくなっただけなんです。初めて知った。きっと中学校の教員には中学校の喜びがあるんだろうな。もっとちゃんと生徒は色んなこと分かっているはずだし。高校には高校の楽しさがあるんだろうなと思った。そういう中でね、残念ながら今、教育学部は瀕死の状態です。マスコミが、ブラックばかりを言うからです。残念ながら、もう代員がいません。日本中の代員がいません。こんなことで日本の教育がよくなるんでしょうかね。競争率は、めちゃ下がっています。遠藤周作の言葉に「くるたの」という言葉があるんですよ。苦しいことだけを言うべきじゃない。苦しいけど、その何倍もの喜びがもらえるんだということを、ちゃんと報道してもらわなきゃいけない。じゃなきゃ教員のなり手がなくなっちゃう。うちの学生も、何人かリタイアしました。受かんないからじゃないんです。割に合わないって言うんです。でもまあよかったか、そういう子がなんなくて。ということかもしれません。これ先生って歌です。(動画：曲「先生」)

皆さんも、きっとお金たくさんもうけたいなんて、なかったですよ。なんか、ちゃんと生きていける人作りって楽しいから。たぶん、それでなりたいと思ったに違いない。

だけど、残念ながらみんななりたくなかった教員なのに、気付いたら、なんか力負けて頼りなくなっちゃってる教員がいたりね。何のために教員やっているんだか、分からなくなっちゃってる。いつの間にか、子どもと教員が悩むとか、考えるとか、笑うとか、泣けるとかそんなこと忘れちゃったよ。小手先で子どもを動かせるようになっちゃった。こういうことがなんか、形骸化を生んでいるじゃないかなって思ってます。

ある中学校の校長さんが「俺には割り切れないものがある」っていうから、「何ですか」って言ったら、「昔は弁当持って来れないやつがたくさんいてな。うちの子どもたちの中にも、弁当を持って来てない男の子がいた。お母さん離婚して夜働いているから持って来れないって。仕方がないから、かみさんに頼みこんで弁当を持ってった。中学1年も2年も3年もずっと持ってった。なのに卒業式の日、そのことに一つも触れずに卒業しちゃった。なんだか割りきれないんだよなあ。教育は見返りを求めちゃいけないんだって。」何度となく、その男の子はマイクを握りましたが、そのことに一度も触れることがなかったといいます。「心は見えないけど、心遣いは見えてしまう。思いは見えないけど、思いやりは見えてしまう。自分が教員として未熟だと。3年もの間、お前のために弁当持って来てやってんだよ。ほかの生徒の目の前で渡して。未熟だったんだよなあ」っておっしゃってた。でもね、その後の同窓会が、退職直前に行われて、いよいよ俺が辞めることになったって言ったら、その男の子がいきなり先生の前に正座して、中学生になった息子2人をそこに座らせて「この先生が、お父さんを、人間として大事にし、人間として成長させてくれたお父さんの金八先生だって大きい声で叫んだ」そうですよ。あれほどまで見返りを求めちゃいけないんだと言った校長さん。「見返りはいいよなあ」といった。バッシングされて、給与下げられて、いろいろあったけど、「我が教員人生、悔いなし」といって辞めていかれました。

冒頭申し上げたように、この国の教育の精度、高さは、教員の犠牲の上で成り立っている。みなさんの犠牲の上に成り立っています。だからそんな先生方にはね、教員人生良かったで終わりにしてもらいたい。誰かが良くしてくれませんから。結局、自分でしなきゃいけないから。もうとつくのとうに、始まっています。

自衛官が25万人雇われているんですよ。自衛官25万人か、警察官25万人。教諭はその何倍も、この国で旅しています。教員がやっていることが、ちっちゃいことに見えるかもしれないけど、そのちっちゃな成果が必ず、地域作ってるし、やがてはこの国を作ります。資源がないって状態、変わってないんですから、この国は。教育しかないですよ。

『はじめの一步』ね。ボクシングを描いた本でありますけど。120巻を超えてる。まだ相変わらず「はじめの一步」っているタイトルなんです。つまり、はじめの一步ってのは、その時々なんです。なんとなくの人生、なんてあつという間に終わるよりも、その時々、私は何のために頑張っているのか、その一步を踏みしめる意味が大切なんですよ。

私は、教育実習を小学校でやったんですよ、1か月。そんなときに、お別れ会やってくれて、花束を贈呈してくれた。知能的には弱い子が、私に手紙をくれたんですよ。「初めて私は小学校に来て友達ができました。だから学校が楽しくなって、勉強頑張れるようになりました。」って書いてありました。「私みたいな子が、日本には、世界には、日本中には、いっぱいいると思うので、どうか立派な先生になってください。」と書いてあります。まあ、この子の期待に応えられて立派な教員になれたかと問われたら、自信はありません。

しかし、いつもこの子が言ってることを頭に置き、その時々何か頑張んなきゃいけないことを決めるはじめの一步なので。つまり、はじめの一步は、その時々によります。

その度に、この作文を読み直す、という風にしていました。まさにこの「はじめの一步」は、集団でやれば合意形成になるし、個人でやれば意思決定になります。こういうことの意味、意義というものを、ぜひぜひ重く受け止めていただき、週にたった1時間の時間ですけど、この話合いにおける意思決定、合意形成をぜひ大切にさせていただきたいと思います。

なんとなく後ろ向きな人生は、これまでの輝やかなしい過去をすべて色褪せさせます。どんな優秀な成績でも、どんな素晴らしく、もらった表彰状もみんな色褪せるでしょう。しかし、今何か目的持って頑張って生きてたら、どんなひどかったことも、どんなひどかった成績も、あれがあったから今があると思いますよね。つまり今の生き方が、過去をも価値付けることになるんです。だから、意思決定、合意形成はとても重要なんですね。

最後に、これはいつも私が必ず最後に言うんですけど、孔子、中国に孟子って方がいらっしやいましてね、弟子から人間として大事なことを1つだけあげると、何かと言われて、しばし考えて、一言「恕」と言ったそうです。許したら楽になりますよ。どうせ人のせいにしたくなるしさ。人のせいにしたっていいんですよ。子育て中の教員が出来っこないんですから。介護中の教員も同じこと出来ないんですから。若い教員がその分頑張って当たり前なんですから。学校はチームですから。管理職の先生方には、そこに勤める教員すべてに、我が教授人生良かったで終わりにしてあげてください。何か頑張らないとね、良かったと思えないんだよね。まさに苦楽しいですよ。苦しいことだけを誰か出来ますか。苦しいだけのことなんて誰もやってないですよ。だからといって、楽しいことだけを長く頑張れますか。頑張れないですよ、そんなことは。苦しいけど、楽しかった。そういう教師人生なのではないかという風に思います。それには、だめなことの思いをどうか、全部を許して、また1から始めたいと思います。

冒頭で申し上げたことを、もう一度申し上げて終わりにしたいと思います。こういう研究会をやっていただくことの意義は、極めて大きいと思います。なかなか授業を見ることなんてないでしょう。他の教科と違って。だからこそ、こういう研究会を、持ち回りでやっていることに意味があるんだろうという風に思います。来年、東広島でやるとかって、ちらっと聞いています。ぜひぜひ、またご指導いただきましたて、みなさんに特活がどうあるべきかを、考える機会にしていただけましたら大変ありがたいという風に思います。そういう点でも、本日の授業のような、素晴らしい良い授業を公開していただきました、日比崎中学校の校長先生、みなさまに感謝を申し上げて、私の話のまとめとさせていただきます。長時間に渡りまして、ご清聴いただきまして、ありがとうございました。

第1分科会 学級活動1（まとめ）

<提案者>

海田町立海田中学校

川本 正大 教諭

テーマ

自己肯定感を高める学級活動
～話し合い活動を通して～

<指導助言者>

広島県西部教育事務所 教育指導課

山口 洋平 指導主事

<司会者>

府中町立府中緑ヶ丘中学校

梶山 直樹 教諭

<記録者>

海田町立海田西中学校

中元 健裕 教諭

質疑応答

《質問1》

話し合い活動はどのように設定し、どのように進めたのか。

《提案者》

事前に生徒へ話し合い活動を行う日を伝えておき、話し合い当日までに話し合いたい内容を日々書き溜めさせておき、当日の意見交流が活発になるように工夫した。また、映像や写真・記録などの情報を生徒に提供することで、様々な視点から課題を捉えることができ、話し合いの質の向上に繋がった。

《質問2》

生徒の合意形成はどのように成されたか。

《提案者》

体育祭の競技の記録を伸ばすという課題に対して様々な案が出た。どの案にするかという議題に対して、生徒の口から「まず、全部やってみよう」という意見が出て、全て試してみた。その結果、生徒全員が納得する形で1つの案に決まり、合意形成が成された。

交流・協議

(1) 話し合い活動が機能しない時の指導について

話し合い活動は、有用であるが機能しない場合がある。教科の枠を越えて学校全体の取り組みとして話し合い活動の充実を図ると機能するようになる。また、3～4人程度の小グループの中で、役割を明確にすることが話し合い活動の充実につながる。

(2) 合意形成を図る話し合い活動を取り入れることによる成果について

生徒が合意したうえで目標を決めているので、指導の際に立ち返ることができ、生徒の活動の意欲にもつながっている。

(3) 話し合い活動の注意点について

話し合い活動では、目標を決めるだけでなく、その目標にする「目的」が大切である。

指導助言

学級活動1では、与えられた課題ではなく、学級生活における課題を自分たちで見つけ、解決に向けての話し合い活動を通して合意形成していくことが求められている。

学級活動1を充実させるためには、特別活動（生徒会活動・学級活動・学校行事）の内容を相互に関連させながら、教師が目的意識をもって計画する。また、特別活動は自主的・実践的な活動であり、学級活動1においても、話し合い活動だけでは不十分である。問題の発見・確認、解決方法等の話し合い、決めたことの実践、振り返りという一連の過程を経ることにより、生徒は話し合い、合意形成していくことの良さを実感していく。

学級活動1の特徴は、学級の生徒全員が協同して取り組まなければ、解決することができない課題について、話し合い活動を通して合意形成をすることであり、学級活動2、3との違いである。その際の留意点は2つあり、1つ目は生徒一人一人が自分事として課題を捉え、課題に対する自分の意見をもつことである。2つ目は、合意形成に基づいた目標に向かって、生徒が具体的な行動を主体的に考え、実行しようとする意志をもたせることである。

第2分科会

学級活動2 進路指導 (まとめ)

<提案者>

福山市立大成館中学校

桑木 亮輔 教諭

テーマ

自主的・実践的な活動を通して、
自己実現を図る進路指導

<指導助言者>

福山市教育委員会

沖藤 豊 指導主事

<司会者>

福山市立東中学校

中島 悠輔 教諭

<記録者>

福山市立向丘中学校

大場 涼子 教諭

質疑応答

《質問1》

「基礎・基本」定着状況調査アンケートの2年時から3年時の結果の変化が示されている。「将来の夢や目標は、叶うと思う」の項目について、2年時57%から3年時71%と大きな伸びが見られるが、どのような取り組みが今回の結果につながっていると考えられるか。

《提案者》

大成館中学校では、「意見交流」という取り組みを行っている。全体場で自分の意見を発言するため、かなり勇気が必要であるが、その場が学校のリーダーとしての自覚を示す場となっている。このような経験を乗り越えることで自信をつけ、様々なことにチャレンジするということにつながり、今回の結果に結びついていると考えている。

《質問2》

アンケート結果の数値だけでなく、特別活動の取り組みを通して、生徒の様子からどのような変容が見られたか。

《提案者》

様々な行事の中でリーダーシップを発揮しようとしている場面が増えている。先輩としての自覚だけでなく、後輩に対して自分たちが何を残せるのかを考えながら行事に取り組む姿が見られる。

交流・協議

(1) 堂々と意見が発表できる生徒の育成について
同じ生徒ばかりに発言が偏らないようにするために、発言を促す際には「自信がない人からどうぞ」などと声をかけるようにしている。発言した生徒に対して教師は、校内で出会った時などに、発言したことに対する評価や称賛をするよう心がけている。声をかけると生徒は良い表情をしているので、認めてもらえたということが自信になっていると考えられる。

勇気を出して発言することに関しては、「自分だけで頑張るのではなく、仲間を作りなさい」と指導しているが、教師から生徒への働きかけよりも、生徒同士のつながりが強いことを実感している。互いに刺激し合い、相乗効果が生まれる関係づくりが大切である。

指導助言

「自分の夢や目標」が今回の題材であるが、まずは生徒が自分のこととしてとらえられるかが重要である。生徒にとって中学校卒業後の進路は人生初の岐路である。学級活動における進路指導は、学級の一員である意識を持ち、学級生活を通して自己指導能力を高めたり、社会的な自己実現ができるようしなければならない。今回の実践では、学び合う風土や互いの進路に向けて高め合う意識が見られ、実践から振り返りまでが一連の流れとして捉えられていた。今後、自己決定したことが実生活と結びつき、取り組んでいるかを事後指導として振り返る場面の設定が必要である。

一人一人の将来を見据えた取り組みにするためには、教育活動全体でキャリア教育に取り組むこと、学級活動では取り組みをまとめ、各教科での学習をつなぎ合わせることも重要である。生徒に付けさせたい力を明確にし、取り組み内容をブラッシュアップしていかなければならない。

大成館中学校が取り組んでいる「意見交流」は、生徒の話合い活動の土壌となっている。学校、校区としての異学年交流を通じて、目指したい先輩の姿が明確になっている。また、教師が活動を価値づけることが大切である。自分の意見を持つことやそれを伝えること、互いの個性を生かして集団で話し合うということが、社会に出てどのように役立つのかを生徒に教えることが教師の役割である。

生徒自らが「考える」、「選ぶ」、「決める」ことを大切にし、生徒が主体的に学べる場になるように取り組んでいくことが大切である。

第3分科会 生徒会活動（まとめ）

<提案者>

広島市立己斐中学校

佐伯 陽子 教諭

テーマ

楽しい学校づくりの取組

～いじめ防止の取組を中心にして～

<指導助言者>

広島市教育委員会指導第二課

加藤 真弓 指導主事

<司会者>

広島市立宇品中学校

中西 理恵子 教諭

<記録者>

広島市立宇品中学校

大重 直美 教諭

質疑応答

《質問1》

昨年の生徒総会で「宣言してもいじめはなくなる」という意見が出たが、始めからいじめについて話し合ったのか、大まかな話し合いの中からその話しが出てきたのか。

《提案者》

6年前から生徒会でいじめの取組を行っている。昨年度生徒総会でいじめ防止宣言と楽しい学校作りを提案したが、「いじめはなくなる。やっても意味がない」という意見が出たことから、生徒総会では保留にし、各学級でも話し合い、執行部が再提案をした。

《質問2》

いじめの取組をすることによって生徒指導の事案が減ったのか。

《提案者》

生徒総会を受け学級で話し合うことで「いじめは許してはいけない」という声があがり意識は高まり、SNSでのトラブルは減ってきている。

《質問3》

いじめ防止宣言に向けて課題の深まりがクラスによって違うことに対し、教職員間での共通理解を深めるための方法はあるか。《提案者》

昨年度文科省による全国いじめサミットで執行部生徒がポスターセッションした内容を学区の小中学生に向けて生徒が話すことで小中連携ができた。

また教職員にも同じような話しをして共通理解を深めた。

《質問4》

話し合い活動を進めるベースに生徒会活動以外の取組みをしているか。

《提案者》

教科や言語数理運用科の授業で4人での話し合い、プレゼンテーションは行っているが、特別活動での話し合い活動は特に行っていない。

交流・協議

(1) 主体的・対話的な学びを促す生徒会活動・話し合い活動について

日頃実践している生徒会活動の中で、生徒達がどのように主体的に活動に取り組んでいるのか、それに向けてどのような話し合い活動を行っているのか等、各学校の成果や課題を交流し合った。

指導助言

生徒会活動においては、学校生活をよりよくしていくための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。こういう資質能力の育成を目指す。

己斐中学校は生徒会活動から、代議員の活動、学級活動、個の活動につなげ、自分自身をふりかえることにより来年を考える、という一年のサイクルを何年も続けている。先生からのトップダウンではなく、生徒総会での生徒の意見や疑問を取り上げて話し合い、活動につなげたこと、代議員会活動、学級活動で、生徒一人一人の活躍の場につなげたことに意義がある。一部の生徒だけでなく同じ気持ち、考え方、課題を話し合い、個々の活動につなげていること、さらにやりっぱなしではなく、相互評価、自己評価につなげ、新たな意識につなげている。小・中学校での話し合い活動は人格形成につながる。身近だけれど自己開示の難しい内容を話し合い活動に取り上げている。振り返ることによって単に思い出で終わらせず、経験につなげる。話し合いで課題を見いだすことによって、今後の人格形成における価値観の形成につなげている。

各学校でも、今年度を振り返り、伝統を引き継ぎながらも、課題に向き合い、それぞれの学校の実態に応じて、話し合い、同じ課題を共有しながら生徒の心を耕してほしい。

第4分科会 学校行事（まとめ）

<提案者>

安芸高田立高宮中学校

松本 聡志 教諭

テーマ

郷土を想い、地域との協働による「体験学習」を通して、社会参画意識・共感的人間関係を育む学校行事

<指導助言者>

西部教育事務所芸北支所

中島 貴宏 指導主事

<司会者>

安芸高田市立甲田中学校

阿部 正志 教諭

<記録者>

安芸高田市立八千代中学校

中原 有紀 教諭

質疑応答

《質問1》

2学年の「商い体験」学習では、生徒たちをどのように組織したのか。

《提案者》

グループ分けは、「どのように2チームつくろうか」と生徒に投げかけ、話し合いで決めた。その後、チームごとにリーダーを中心に、役割分担をさせている。

《質問2》

学校と地域の連携について。

《提案者》

全学年で参加している「たかみや大地の祭り」では、教職員が1学期から地域振興会と連携している。今後、生徒の主体性を育むためには、地域との連携も生徒主体でできればよい。

《質問3》

総合的な学習の時間との関連について。

《提案者》

学習指導要領に示されている目標や内容を踏まえ、両者の特質を生かして活動を展開している。

《質問4》

地域コーディネーターのような役割をしている人がいるのか。

《提案者》

主に、地域振興会の方と連携を図っている。

《質問5》

生徒が地域の行事に参加することで、地域としてはどのようなメリットがあるか。

《提案者》

生徒が参加することで、地域が活性化し、地域行事が盛り上がる。背景には、地域振興会会長の「過疎化が進んでいる地域を盛り上げるために、地域の一員として、地域行事に参加してほしい」との強い思いがある。

交流・協議

(1) 神石高原町立神石高原中学校の実践

今年度から各地区の地域協働支援センターに依頼をして、プログラムをつくってもらった。例えば、しめ縄飾りづくりやおもちづくり、踊り体験などを行っている。地域協働支援センターは、「地域の子どもたちを育てよう」、学校は、「地域と子どもたちの関わりを増やしたい」との両者の思いから、地域と生徒をつないでいる。今後は、教育課程との関連を考え、内容を深めていきたい。

指導助言

◆育成すべき3つの「資質・能力」について

①「知識・技能」

高宮中学校では、活動の意義や目的、必要なことなどについて十分生徒に理解させた上で、自分たちの課題を発見し、目的意識と責任感をもって活動に取り組むことができている。

②「思考力・判断力・表現力」

高宮中学校での実践は、学校行事において、自分たちが行うことの価値付けを話し合いの中で行い、合意形成が図られ、意思決定が行われている具体例であるといえる。

③「学びに向かう力・人間性」

生徒は、話し合いを重ね、意義、目的などを十分に理解し、共有を図った上で実際に活動に取り組んできた。生徒の振り返りからは、地域に積極的に貢献しようとする態度が育成され「社会参画意識」が高まっていることが分かる。

◆「カリキュラム・マネジメント」を意識した指導計画について

学校の教育目標や指導の重点、地域の特色や学校の伝統などを考慮し、行事の重点化を図るなど、各学校の実態に即した特色ある学校行事の指導計画の作成・実施が必要である。

講評

広島県教育委員会 豊かな心育成課

土田 俊弘 指導主事

広島県教育委員会豊かな心育成課生徒指導係の土田でございます。本日は、「令和元年度第29回広島県中学校特別活動研究大会」が、ここ尾道市立日比崎中学校で開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

さて、広島県教育委員会では、これからの変化の激しい社会をたくましく生きていくために必要な資質・能力の育成に向け、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき、県内すべての児童生徒が、学習者基点の能動的で深い学びを実現することができるよう、取組を進めているところです。「学びの変革」のキーワードである「主体的な学び」を促す教育活動は、実際の生活経験や体験活動による学習を通じて「自主的、実践的な態度の育成」を図る特別活動の目標につながるものです。

これからの社会を、児童生徒がたくましく、しなやかに生きていくためには、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、自ら考え行動する力や他者と協働する力を身に付けることが大切であり、学校教育において特別活動の果たす役割は、ますます重要になっていけると言えます。そのような中、本大会が「主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～」をテーマに開催されることは大変意義があるものと考えております。

人々の心に一生刻まれるような大会を目指し、「4年に1度ではない、一生に1度の大会」をキャッチコピーとした、ラグビーワールドカップ日本大会は、皆様も記憶にも新しいと思います。日本は、ワールドカップ史上初のベスト8進出を目標に、そして「Oneチーム」を目的に、この大会に向けたトレーニングを、

約4年間行ってきました。この目標と、目的が明確であったことが見る者を魅了し、人々の感動と興奮を呼び起こしたのではないかと思います。

10月13日、日本代表がベスト8進出をかけて臨んだスコットランド戦の前日、台風19号が東日本に甚大な被害をもたらし、試合開催が危ぶまれる中、約二千人のスタッフと地域住民らが復旧作業にあたり、試合開催を実現させました。その試合で勝利を収めた日本代表は、ワールドカップ史上初となるベスト8進出を果たしました。

その後、代表メンバーは、千葉県を訪れ、復旧作業に参加をしたそうです。ピッチに立つ15名の「Oneチーム」だけでなく、選手、スタッフ、家族を含めた「Oneチーム」だけでもなく、ワールドカップを通して、人々の横糸をつむぎ、その糸が見える形として、希望を与える姿として、我々の記憶に残ったのではないかと思います。このことは、人としての礎を創る特別活動の在り方と、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることのヒントを与えてもらえたような気がしました。

さて、本日、公開していただきました授業や各分科会での提案を踏まえて、今後に向けて、更なる取組の深化・充実につなげていただきたい視点をお伝えいたします。

まず、公開授業についてです。カリキュラムマップを生かしながら、学校行事を核とした、生徒がチャレンジしたいと思う単元づくりを行っておられます。

「分かり合う」「比べ合う」という授業展開の場面では、ホワイトボードに生徒の意見を加筆し討議の見える化を行うことや、各班の意見に関する質疑応答、グ

ルーピングやラベリングを通して、意見の練り合い、吟味を行うなど、全体討議の充実を図る場面を、各授業で見せていただきました。

「表現力・コミュニケーション能力・主体性」の育成に向け、本時の授業に向けての事前の指導として繰り返し生徒自らが現状を見つめ、課題意識を持たせる取組を行わせ、事後の指導において、本時のねらいと事後の取組がつながるように計画されています。その場限りの活動で終わらせることなく、事前にそのねらいや意義を生徒に十分理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることなどにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後には、体験を通じて感じたり気付いたりしたことを、自己と対話しながら振り返り、文章でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視し、他者と体験を共有して幅広い認識につなげる必要があります。

特別活動における「自己実現」とは、将来なりたい自分に近づくため、今の自分にできることを考え実践しながら、よりよい自分づくりを目指すことができるようにすることです。そのためには、他者との関わりの中で自己理解を深めていくこと、自らの生き方を考え、自己のよさや可能性を生かしながら「個の成長」を重ねることなどがが必要です。自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てていくためには、学級活動における一連の学習過程を通して、課題発見や合意形成の方法を身に付けていくことが重要となるため、意思決定を学習過程の中心に据えている学級活動(3)においても、同様の成果が期待できます。

学級活動(2)や(3)の授業において、「教師から提示された課題を自分の課題として受け止める」「原因を追求し、解決への意識を高める」「解決方法を話し合いを通して考える」「自己の努力目標を決める(意思決定する)」という一連の指導過程を重視す

ることにより、自己実現の喜びを味わわせることにつながります。子供たちが、仲間からの言葉を受け止め、受け止めることにより心を耕し、自らの言葉で表現することにより未来を創ることのできる授業を目指し、見通しを持たせ、振り返ることを繰り返しながら、「なんのためにやるのか」「なぜやるのか」といった、目的と目標を子供同士も、先生と子供たちも共有できる授業と学校生活づくりに向けて、今後も取り組んでいきたいと思っております。

公開授業を行っていただきました、佐藤先生、風盛先生、川嶋先生、ありがとうございました。

続いて、分科会についてです。

第1分科会 海田町立海田中学校 川本先生のご提案では、子供たちが、支えあい、認め合う「支持的な風土」の学級がベースとなり、安心して自らを表現できる学級へと変容を遂げました。まさに、学級経営の基本理念を貫き、生徒の変容を見取りながら、自己肯定感を高め、言葉では伝えきれない感謝の気持ちや仲間への想いを伝えるなど、生徒同士のコミュニケーションを深めていくことになる取組です。今後も、主体性を高めるため、生徒自身が自分たちの生活の中から、解決すべき課題を発見し、その解決のための取組を話し合い、協働して課題を解決し、成功体験を積み重ねていくような取組を進めていただくことを期待しております。

第2分科会 福山市立大成館中学校 桑木先生のご提案では、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげ、将来につながる生き方を考える実践です。教科等横断的な学習を充実することや、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して授業改善を行い、教育活動の質を向上させ、学習の効果を高めることは、カリキュラムマネジメントとして、学習指導要領の理念を実現するために重視され

ていることです。特に、特別活動は道徳や総合的な学習の時間とは密接に関わりがあり、関連付けて指導を行う必要があります。今後も、中学校のキャリア教育の要としての特別活動の意義を明確にし、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めるために、生徒にとって自己理解を深めるためのものにし、教師にとっては、生徒理解を深めるための取組となるよう期待しております。

第3分科会 広島市立己斐中学校 佐伯先生のご提案では、いじめのない楽しい学校をつくるために、生徒一人一人がいじめをしない、許さないといった意識を持つために、生徒会を主体とした「いじめ防止宣言」の作成と「楽しい学校づくり」標語作成の実践です。先日公表いたしました、「平成30年度の広島県における生徒指導上の諸課題等の現状」では、いじめの認知件数の増加について、各学校において研修等を通じて、いじめの認知に関する共通の理解がなされ、教職員が積極的に認知できるようになったことや、児童生徒または保護者から、いじめに係る相談や情報提供が増加してきたことなどがいじめ認知件数の増加へと繋がっています。しかしながら、本提案のように、生徒自らが課題意識をもち、いじめの未然防止の取組を充実させていくことが最も重要であります。生徒が、目標に向けて実践する過程は、集団生活の中で互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学び、所属感や連帯感、互いの心理的な結び付きなどが培われ、いじめの早期発見や未然防止等において重要な役割を果たします。また、互いの人間的な触れ合いを深め、生徒一人一人に存在感を味わう場と機会を与える活動は、生徒指導の役割も働いています。「いじめ問題子供サミット」等で得た評価を、生徒一人一人が自らの自信に変え、集団の形成者として、多様な他者と、互いの個性を生かして協力し、積極的に学校生活の充実と向上を図ろうとする態度の育成につながることを

を期待しております。

第4分科会 安芸高田市立高宮中学校 松本先生のご提案では、学校と地域が連携・協働して、「繋ぐ」「結ぶ」学習を一体となって取り組まれている実践です。日常の学校生活に秩序と変化を与え、学校生活を更に充実、発展させるための実践を通して、地域や自然と関わり、多様な文化や人と触れ合う中で、地域の一員としての自覚が芽生え、学びが日常とつながる大変参考となる取組です。「中学校学習指導要領解説 特別活動編」にも、『社会に開かれた教育課程』の観点から、生徒の主体的な活動を指導する具体的な方策や、自校の実践を地域社会と共有することなどが大切である。指導に当たっては、これらの教育的意義を理解して効果的な指導計画を立てる必要がある。その際、学級・学校文化を自発的、自治的に創造することを通して、協働的な実践的活動を充実させることが極めて重要である」とあります。

学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結び付け、人間としての生き方について考えを深めながら、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりすることができるようになることや、身に付けたことを生かして、集団や社会の形成者としての自覚を持って多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくろうとする態度を養う取組を、今後も充実・発展させていただくことを期待しております。

以上、公開していただきました授業や各分科会での提案を踏まえて、今後に向けて、更なる取組の深化・充実につなげていただきたい視点をお伝えいたしました。いずれの授業、発表からも、今後の実践に役立つ、貴重な御示唆をいただきました。ありがとうございました。

最後に、「出会えたときめきも 別れの寂しさも 胸に刻んで歩いていくんだ 道は明日へ続いている

何もかもが見えなくなることもあるけれど 人は誰もが孤独だから 誰だって同じさ 一人じゃ生きられない」と、メッセージを伝えてくれた日比崎中学校の生徒の皆さんの歌声に、改めて感謝をしたいと思います。作曲家の若松 欽は、合唱曲「生きている証」について、「生きていることを実感するには、人生を歩み始めた彼らにとってまだまだ霧に包まれたものなのかもしれませんが、こういった合唱曲を歌ったり、読書や映画鑑賞をして、その世界を疑似体験するとはとても良いことです。この曲も彼らが大人になった時に、本当に実感を込めて歌えるのだらうと思います。若さや躍動感あふれる年齢だからこそ表現できるものもあるので、今の自分たちがわかりうる「生きること」の素晴らしさ、厳しさを伝えられる合唱を作ってほしいです」と述べています。

さて、日比崎中学校の生徒は、今日の歌声をどのような想いで歌ってくれたのでしょうか。先生方、どう思われますか？日比崎中学校の先生方、いかがでしょうか？おそらく、想像はできても、子供たちに聞かないとわからないと思うのです。

「子供の中にしかない答えを、どうやって子供から教えてもらうのか」この問いが、子供の言葉を謙虚に受け止め、常に人間性を磨く指導者としての姿勢につながるのではないかと思います。また、実際に生徒が実践的な活動や体験的な活動を通し、現在及び将来にわたって希望や目標をもって生きることや、多様な他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深め、集団の形成者としての認識をもてる学級経営の充実を図ることや授業づくりにつながると考えます。

では、子供たちに「今日の歌声は、どんな目的を持ち、何を目標に歌いましたか？」と問い、「歌い終わった今、どんな気持ちですか？」と聞かれた子供たちは、「私は！」と自分自身のことを語るのか、「私たち

は！」と集団としての想いを語るのか、そのために、どのように振り返りを行うのか、特別活動で培われた力を、学校生活のあらゆる場面で「汎用的」に活用させていくために、「必要なことは何か」を求めていくことが特別活動の目標に迫るものになると思います。

合唱は、同じ場所で、同じ言葉を発し、同じタイミングで息を吸い、息を吐き、そして、同じ時間を過ごすこと、日比崎中学校の生徒の歌声から、「共に生きる」ことの意味を、改めて学ばせてもらったことに感謝したいと思います。

最後になりますが、本日まで熱心に研究を積み上げてこられました広島県中学校特別活動部会及び大会実行委員会関係者の皆様、会場提供や準備等で御尽力をいただきました尾道市教育委員会、日比崎中学校宮里校長先生をはじめ、各関係校長先生方、そして教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。今後も当部会が本県教育の充実、とりわけ特別活動の一層の充実・発展に向け、先進的な研究を進められ、ますます発展されますよう祈念いたしまして、講評とさせていただきます。

広島県中学校特別活動研究大会の経過

回	実施年月日	開催地	会 場	主 題	会 長
第1回	平成2年 11月23日	広島	広島市 青少年センター	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造	上本 忠則
第2回	平成3年 11月20日	広島	広島市立 矢野中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造	上本 忠則
第3回	平成4年 10月21日	広島	広島市 青少年センター	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやさしさを求めて—	梶山 静海
第4回	平成5年 10月14日	西部	廿日市市立 四季が丘中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやさしさを求めて—	梶山 静海
第5回	平成6年 10月21日	呉	呉市立 吉浦中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —主体的に行動できる生徒を育てるためには—	森山 弘行
第6回	平成7年 11月21日	福山	沼隈町学校組合立 至誠中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやる気を求めて—	森山 弘行
第7回	平成8年 11月19日	広島	広島県立生涯 学習センター	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —たくましさやさしさを求めて—	森山 弘行
第8回	平成9年 10月1日	山県	山県郡筒賀村立 筒賀中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —いのち・愛・人権・主体—	澤村 晴視
第9回	平成11年 9月30日	三原	三原市 中央公民館	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —体感・知恵・主体—	澤村 晴視
第10回	平成12年 11月17日	安芸	安芸郡府中町立 府中中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第11回	平成13年 11月22日	福山	福山市立 城東中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第12回	平成14年 11月21日	西部	佐伯郡大野町立 大野中学校	心豊かな人間性をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第13回	平成15年 10月8日	広島	広島YMCA ホール2号館	心豊かな人間性をめざす特別活の創造 —生きる力を育む—	高田 昭夫
第14回	平成16年 10月8日	三原	三原市立 宮浦中学校	心豊かな人間育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	森田 利美
第15回	平成17年 11月21日	東広島	東広島市 中央公民館	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	植木 唯男
第16回	平成18年 10月27日	福山	府中市 文化センター	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	宮之首行隆

第17回	平成19年 11月16日	庄原	庄原市 文化センター	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	松本まゆみ
第18回	平成20年 10月15日	広島	広島県立生涯 学習センター	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	加藤 映
第19回	平成21年 10月14日	尾道	広島県立 びんご運動公園	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	今崎 英明
第20回	平成22年 11月19日	呉	呉市郷原市民センター 呉市立郷原中学校	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	岩崎 真理
第21回	平成23年 11月17日	福山	福山市神辺文化会館 福山市立神辺西中学校	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	中 研司
第22回	平成24年 10月5日	芸北	美土里生涯学習 センターまなび	心豊かな人間の育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	中 研司
第23回	平成25年 10月9日	広島	広島市立 国泰寺中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	中 研司
第24回	平成26年 9月19日	東部	神石高原町立 神石高原中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	政兼 功尚
第25回	平成27年 11月16日	西部	江田島市立 三高中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	政兼 功尚
第26回	平成28年 11月14日	福山	福山市立 東朋中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	胃甲 登
第27回	平成29年 11月13日	西部	廿日市市立 野坂中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	小松 葉子
第28回	平成30年 10月10日	広島	広島市立 高取北中学校	生きる力を育む特別活動を求めて —魅力ある特別活動の取組を通して—	大塚 由美
第29回	令和元年度 11月18日	東部	尾道市立 日比崎中学校	主体的・対話的で深い学びを促す特別活動の創造 ～話し合い活動を通じた合意形成力の育成～	宮里 浩寧

全日本特別活動研究大会広島大会

第27回	平成10年 8月7, 8日	広島	広島県民 文化センター	心豊かな人間育成をめざす特別活動の創造 —生きる力を育む—	澤村 晴視
------	------------------	----	----------------	----------------------------------	-------

令和元年度 広島県中学校教育研究会特別活動部会 理事一覧表

○会長 宮里 浩寧（尾道市立日比崎中学校）

○顧問 土田 俊弘（広島県教育委員会 豊かな心育成課 指導主事）

B	地区	役職	名前	職	勤務校
		顧問	土田 俊弘	県教委指導主事	
1	呉		大下 孝之	校長	仁方
			森脇 哲久	教諭	仁方
	竹原・大崎上島		北村 洋子	校長	賀茂川
	東広島		新谷 三平	校長	高屋
			木井直 芳秀	教諭	磯松
	江田島		河野 秀直	教頭	能美
			大竹 勇毅	教諭	江田島
	安芸	副会長	小山 貴美	校長	府中
			梶山 直樹	教諭	府中緑ヶ丘
	2	大竹・廿日市	副会長	吉岡 透	校長
			金谷 綾太	教諭	宮島
安芸高田			竹村 和洋	教頭	高宮
			阿部 正志	教諭	甲田
安芸太田・北広島			藤田 典生	校長	大朝
			井丸 尚	教諭	安芸太田
三次			砂走 勝美	校長	甲奴
			西岡 真	教諭	君田
庄原		加藤 真悟	校長	西城	
3	三原		有木 浩城	校長	三原第三
	尾道	会長	宮里 浩寧	校長	日比崎
			佐藤 祐司	教諭	日比崎
	府中		山坂 公宏	教頭	明郷
	世羅		福光 裕次	校長	甲山
	神石高原		藤野 賢二	校長	神石高原
4	広島市	副会長	大塚 由美	校長	高取北
			東歸 達子	教諭	祇園東
5	福山市	副会長	村上 啓二	校長	培遠
			桑木 亮輔	教諭	大成館
	事務局長		佐藤 祐司	教諭	日比崎

広島県中学校特別活動研究大会 開催予定地

回	年度	開催予定地	
第29回	令和元年度	第3ブロック	東部
第30回	令和2年度	第1ブロック	西部（芸北支所・大竹市・廿日市市を除く）
第31回	令和3年度	第5ブロック	福山市
第32回	令和4年度	第2ブロック	西部（芸北支所・大竹市・廿日市市）・北部
第33回	令和5年度	第4ブロック	広島市